



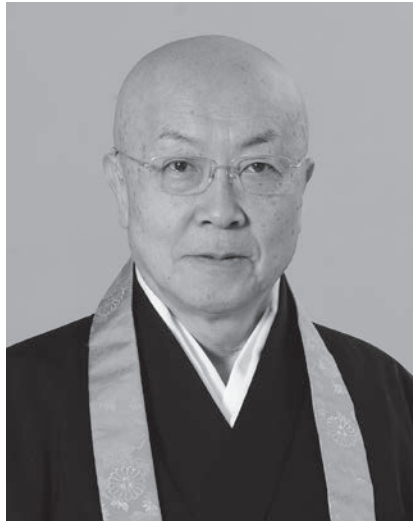
一般社団法人 大日本武徳会

会報 **武徳**

2017.10 秋季号







一般社団法人 大日本武徳会



## 本会の未来的課題

濱田 鉄心

本会が武道組織として未来的に発展していく為に直面している事は多々あります。その最大の問題は会員数が年々減っている事です。二つ目は財政的な基盤が徐々に弱体化している事です。高齢化が着実に進む中、本会の重鎮である多くの先生方もその流れには逆らえません。従って必然的に老化していく組織がいかんにして活性化するかが大きなチャレンジです。我が国において本会は誇り高い歴史と伝統を持っています。しかしながら、それ以上に魅力ある武道組織でなければ次世代が引き続いて本会の発展に寄与する事は期待できません。

まず具体的な対策として、各団体・支部に会員増強の一層の努力をお願いしたいと思います。各団体が一割の会員数増加で約五十名の総会員増加となります。これを十年間継続しますと全体的に五百人の増加となります。この統計は余りにも楽観的すぎますが、あくまで理想的な目標です。同時に本部も役員・職員が一人丸となって会員増強のために努力します。その為のPRも積極的に進めていきます。このような厳しい時期であるからこそ想像力豊かな対策を講じる必要がありますので、来年度の全国武徳祭には、各地から厳選された招待演武者を招聘したいと考えています。

その為の適切な調査やリサーチを進めると同時に、全国で活躍されている武道家で、武徳の理念に共鳴される先生方を中心に啓蒙活動をしていきます。何もしない事が最大の敵であるからこそ、能動的に立ち向かっていくしか克服する方法はありません。受動的に待つだけでは組織が年々老化、退化していただくです。会員一人一人が本会のPRを各方面で、積極的にしていただく事により一層効果が期待できます。もちろん数を増やすだけでなく、質も高めていく必要があります。大半の団体長は優秀な武道執行専門委員の先生方ですから各武道種目において卓越した教授指導がされると確信します。二〇二〇年を目標として会員数の増強と、本会の財政基盤をさらに改善させることが肝要な対策と考えます。

本会の本年度主催事業に関しては、全て順調に開催されており成功裡に成果を収めておりますが、これはひとえに会員の皆様の絶大なるご協力とご支援の賜物であります。この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

平成三十年度は平成年の、最後の締めくくりの行事として、来年度の定時社員総会より始まり、多くの重要慣例行事を企画してまいりますので一層のご協力を宜しくお願い申し上げます。

本会が目指す高い次元の理想理念は、我が国が誇る伝統武道が武徳の哲理のもと、内外において老若男女に広く愛され実践されて社会の潤滑油となり、大きな貢献をすると共に、武道交流を通じて世界の相互理解や共存共栄に寄与することにあります。さらに次世代の青少年に活力と自信を与え、困難を乗り越えることが出来る強い精神力を養うことも重要です。伝統武道の技の習得には忍耐力が必要とされ継続する事が重要視されます。先端技術の習得が何よりも優先される時代であるからこそ新しい世界観と豊かな人間性に富んだ文武両道に優れた若者が、これからの日本に必要とされます。今、正に学問の勧めと武道の勧めを促進させることにより日本の社会は大きく変貌していくと思われれます。いかにして大日本武徳会が世界の青少年に愛されていくかが、これからの課題です。そういう意味で本年度フランスのクレルモン・フェラン市において開催されたフランス武徳祭・国際青少年武徳祭は想像以上に、多大な感動をもたらす成果がありました。国内における全国青少年武徳祭においても大きな熱意を込めた演武会が盛大に開催されることを期待します。さらに伝統武道を継承していくビジョンが大切ですので、秋の平安神宮奉納古武演武大会や青龍殿国宝青不動明王奉納演武大会などにも精力的なご参加をお願いしたいと思います。

私達は常に未来における変化を念頭にいれながら現在の指針を創造します。会員一同が心を一つにして、より一層本会の健全なる発展のために貢献していただく事を念じまして、本年度秋号会報の未来的課題とさせていただきます。







創立百二十二周年記念

第五十五回 全国武徳祭

日時 平成二十九年四月二十九日 午前十時

場所 京都市武道センター・旧武徳殿

主催 一般社団法人大日本武徳会

後援 京都府・京都市

- ◆ 大会次第
- ◆ 第55回 全国武徳祭 表彰
- ◆ 大会の様子
- ◆ 御礼の御挨拶
- ◆ 受賞者のことば

# 創立百二十二年周年記念 第五十五回 全国武徳祭 表彰

## ●団体最優秀賞

大阪府 大阪修武会

## ●個人最優秀賞 桑原兵充杯

フランス 国際部フランス支部 A. Cognard

## ●京都府知事賞

神奈川県 天真正伝香取神道流 杉野道場 杉野至寛

## ●京都市長賞

京都府 至誠館 藤井正巳

## ●団体優秀賞 [十団体]

京都府・滋賀県 一心無双流居合道 剣心会

大阪府 虚心流居合剣法 弓刀錬心館道場

大阪府 誠道館 虚心流居合剣法

京都府 日本武道空手協会

石川県・京都府 石川県支部 こぼと修童館

大阪府 沖縄又吉古武道 光道館 大阪堺守礼館

愛知県 名城大学体育会居合道部

京都府 至誠館

フランス 国際部 フランス支部

ロシア 国際部 ロシア支部

## ●団体奨励賞 [十団体]

島根県 貫心流

大阪府 日本古武道武公館道場



三重県 神和会

茨城県 陽武館 市村道場

福島県 中村流抜刀道 新誠館

京都府 土佐伝承無双直伝英信流 理法塾

大阪府 神伝円心流

千葉県 日本伝千葉一心無双流居合兵法 千葉剣心会

栃木県 無双直伝英信流 英信館

大阪府 武徳和魂会 心傳流柔術

●団体努力賞  
【十三団体】

東京都 無雙直伝英信流 東京蘆洲會

愛知県 日本戸山流居合道

兵庫県 日本古武道直心会

長野県 長野県支部 古武道唯心会

兵庫県 心月無想柳流 古武道甲武館

奈良県 北攝古武道会

大阪府 素心流居合抜刀術

大阪府 日本古武道 誠慧塾

愛知県 尾張英信流錬駿館

大阪府 日本古式武道協会 拳刀会

徳島県 誠正館抜刀術神伝流

神奈川県 天真正伝香取神道流 杉野道場

アメリカ 国際部 アメリカ支部

個人賞

●優秀賞【八名】

京都府・滋賀県 一心無双流居合道 剣心会

京都府 日本武道空手協会

大阪府 日本古武道 武公館道場

石川県 石川県支部 こぼと修童館

京都府 土佐伝承無双直伝英信流 理法塾

京都府 至誠館

栃木県 無双直伝英信流 英信館

ロシア 国際部 ロシア支部

山田 文典

道観世 宗慶

木下 公子

長田 順一

松村 則夫

渡邊 佳代子

桶田 正信

A・Arabadjiev

●奨励賞【十名】

大阪府 誠道館 虚心流居合剣法

京都府 日本武道空手協会

石川県 石川県支部 こぼと修童館

長野県 長野県支部 古武道唯心会

高崎 末吉

上村 雅彦

榊田 正博

小松 秀敏

茨城県	陽武館 市村道場	市村	みな子
兵庫県	日本古武道直心会	石本	一平
神奈川県	天真正伝香取神道流 杉野道場	岩田	一政
奈良県	北攝古武道会	粕井	隆
フランス	国際部 フランス支部	M.Dossola-Paviot	
ロシア	国際部 ロシア支部	D. Ivanov	

### ●努力賞【十七名】

大阪府	日置流半弓術 弓刀錬心館道場	藤井	宏子
京都府・滋賀県	一心無双流居合道 剣心会	西村	竹生
大阪府	虚心流居合剣法 弓刀錬心館道場	浦上	則國
大阪府	沖繩又吉古武道 光道館 大阪堺守礼館	野村	孝子
愛知県	日本戸山流居合道	横山	達也
三重県	神和会	青山	智子
愛知県	名城大学体育会居合道部	坂口	直美
大阪府	大阪修武会	山本	哲也
大阪府	神伝円心流	谷村	浅明
大阪府	水心流楠誠会館	渡部	達也
大阪府	日本古武道 誠慧塾	田中	稔
愛知県	尾張英信流錬駿館	加藤	敏夫

### 【剣道の部】

フランス	国際部 フランス支部	G. Angé
フランス	国際部 フランス支部	B. Jolly
フランス	国際部 フランス支部	F. Palazzolo
ロシア	国際部 ロシア支部	A. Petrenyuk
アメリカ	国際部 アメリカ支部	J. Williams

### ●優秀賞

大阪府	誠道館 虚心流居合剣法	杉本	安隆
-----	-------------	----	----

### ●奨励賞

埼玉県	振武館 白岡道場	大塚	熙夫
-----	----------	----	----

### ●努力賞

大阪府	誠道館 虚心流居合剣法	米澤	正
-----	-------------	----	---



## 団体最優秀賞

### 団体最優勝賞を受賞して

大阪修武会 永井 節哉

平成二十九年四月二十九日、第五十五回全国武徳祭におきまして栄えある団体最優秀賞を受賞することができました。

参加門人一同を代表致しまして、大会役員の皆様並びに諸先生方へ心より御礼申し上げます。

私共大阪修武会は、代表太田淳一師範の指導の下、無双流の居合・剣術並びに兵法二天一流剣術を学んでおります。

現在は、大阪市城東区の本部道場を中心として、平野支部、神戸支部、淡路支部の四つの道場で約三十数名の門人が修行に励んでおります。特に、本部道場は毎練習日に、初級・中級・上級の門人が二十名前後集まりますので、各人のランクに合わせた効率の良い稽古法が求められます。居合で、武器としての日本刀の構造や遣い方と形を学び、剣術で戦い方の形稽古をするのが基本的な練習パターンです。

初め師範から、人を指導するのも修行の一つとして、後輩門人や初級者を指導するようにとの指示があり、師範から学んだことを自分なりに工夫して指導してみました。が、師範のようにはいきませんでした。

当たり前のことですが、居合・剣術に対する理解の度合いや心構えと身体の動きのレベルが全く違うからでした。

悩みましたが、答えは全く身近なところにありました。

自分が修行をしている兵法二天一流そのものでした。

五輪の書は、約三七〇年前に、流祖宮本武蔵が戦を知らぬ後の世の武士のために書遺した武士としての生き方と剣術の術理書でした。

そのまま読んでも現代にも通じる理論的に体系化された素晴らしい書です。心構え、身構え、目付、太刀の持ち方、足遣いから始まり太刀遣いの原理としての五方の構え、太刀の道、五つのおもて等々。

本当に勉強になりました。今では、太刀の持ち方等の指導がすぎて、初級の人たちからうるさがられております。

この度の受賞を、今後の精進への励ましとして大阪修武会一同、武徳の研鑽を重ねてまいります。

今後とも、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



一般社団法人 大日本武徳会  
副総裁 桑原兵充

### 武道と将棋

将棋・十三将棋館道場・会席四十周年・北川茂先生の慶事の報に接して過去の将棋と私の思い出が、雲が湧くように蘇って参ります。今から四十年位以前のこと、大阪市上本町の近鉄百貨店において、日本将棋連盟主催の将棋展覧会が開催され多くの来場者で会場は盛況を極めていました。

抽選で・有名な先生方のご指導を受けることの幸運に恵まれ、大山康晴先生の指導を受けることが出来ました。記念として、大山先生の書を篆刻した将棋の駒を頂きました。現在も頂いたままの状態で保管いたしております。



以下、私事ではありますが、相通ずるものがあると考えますので、武士道と将棋道の講話について、この紙面をお借りしてご紹介いたします。

私は今年十月で九十五歳になります。年齢を申し上げて於かないと、五十年も過去の話であり、町の佇まいが異なってきておりますので、若い年代の方々には、町の情景等について理解出来ないと思います。山鹿聖学の会・東海清波先生の訓えを受けていたときの教義の一節、武士が如何に将棋を愛していたかが解かります。

今は、あまり見られなく成りましたが、暑い夏が来ると昼の疲れを癒す夕涼みに、町の人々は、表に床几をもちだして、将棋を楽しむ人々を見かけたものです。三百年の昔、元禄の頃もそうであったかも知れません。なぜならば、厳格な修養の話の多い山鹿随筆の中に、将棋の話が出てくるからです。

将棋を見ると、王は中央にいて、四方自由にすれども、大業なし・飛車・



角行大業なして、小業ならず・金銀ひとところずつ不自由なり、王のそばに有る駒は皆自由を宜しくして、只一通りの技迄成り、遠くのものほど、大業ありて、それほどまた細やかなる用事たりにくく也この心得面白しとある。此の面白しから、さらに其の将棋の内蔵する妙理を考える時、訓えられる所決して少しとしない。

将棋の仕組みを、道心を以て考える時、其処に一段の深慮を汲み取る事が出来る。一草一木・鳥虫に至るまで、観察を細やかにすれば、其処に神秘の扉は開かれてある。

誰が考えたのか、此の将棋の仕組みは実によく出来ている。経国の大業から、人間的義勇と滅私奉公の精神活動の方向を示す教範とも云える。

まず王将は、中央に位して総大将の貫禄を持しているが、其の実際は象徴的存在でしかない。其の主権は王将の頭脳、天君にある。従って王将以下全軍は天君の一令であって、天君の命令する処一兵も反くことがない。

床台将棋の場合・見物人の横合いからの差し出口が有る。

これは軍制を乱す行為であって、この助言者は首を切って、将棋盤裏側切込みの有る処へ据えられる掟が有る。一軍は飽くまで一将であって、一軍一令を軍制とすることは兵法の常則である。

一軍の将兵中四方八方自由であるものは大将一人だけである。若伏敵俄に襲う、一騎打ちの勝負となっても、大将は八方自由に働ける自衛の力を持つことは、大将平成の覚悟を訓えるものである。

大業を持つ飛車・角行も一旦敵地に踏む戦功を挙げれば一所の不自由は解消して、大業・小業兼備の威力を増す、一兵卒の歩も敵地を踏めば忽ち金位に上がりその機能十倍にする。

一軍将兵一丸となって、終始一貫忠誠の心を持って、一人軍規を乱す者が無い。一旦緩急あれば、将卒自分を顧みず、自ら進んで王の犠牲となる。忠誠の勇武、滅私奉公の精神を如実に示す。其の壮烈鬼神も涙を垂れる。

衆庶の遊戯と見られる床台将棋も、少し考察思弁を費やせば人間内省に資する実理のあることが判る、その勝負の決する処道理の合否に有る。道理に反して勝つ法はない。理は曲断すべからず。

## 春季高段者審査会 空手道統括審査委員長

濱田 鉄心

春の高段者審査会において一名が最高段位である八段審査を受けた。過去の武道執行専門委員会において、多くの議論がされてきた内容から審査基準は既に明らかであった。その詳細はこの紙面では割愛させていただくが、審査の方法については審査委員会において、これからも議論の余地があると思われる。

伝統武道の形審査は基本的な技量所作のみならず、総合的な観点から、その受験者の大極、小極を素早く見極めなければならぬ難しさがあるという点である。言うまでもなく受験者にとって、審査に臨む目的は審査に合格する事である。審査委員にとって審査の目的は、審査基準に基づいて、厳格に審査を実施することであり、優柔不断な判断は許されない。しかしながら、主観的な判断であることから、その尺度の差異は顕著になる場合もある。特に高段者審査に関して審査委員の価値判断が大きく異なるとき、その方法論に問題が出てくる場合もある。受験者に関してもその瞬間だけで全てが決する為、諸般の体調や心理条件の影響で最上の技量が発揮されない場合もある。

万全な体調とは言えない状態だった今回の受験者は、武徳殿における演武はその緊張感を高めるにもかかわらず、最大限の努力をしていたように思われる。スポーツ競技の試合演武ではなく、その演武は受

験者の武道に対する全身全霊を込めた克己する姿でなければならぬ。数回に及ぶ演武は、その本質的な改善が明らかに観察された。その誠実な姿勢や態度や決断は、時に失敗を体験した時こそ鮮明になる。その時の内面的な判断は実に困難である。審査委員会の責務は合否判断のみならず、その受験者の人格を尊重し、常に未来への改善策を念頭に入れながら、共に克己することが大切であると考えられる。

今回の受験者の合格を祝うと共に、審査委員会の忍耐強い賢明なる判断に感謝したい。

武徳会の高段者審査は、武徳会でしか出来ない総合的な人格審査であるということも忘れてはならない。それは客観的な技量審査の基本のみならず、審査委員にも課された武道哲理の根本であるかも知れない。常に双方にその試練が横たわっているという事を認識させられた審査委員会であった。

## 高段者審査を受審して

日本古武道直心会 石本 一平

平成二十九年四月二十八日に旧武徳殿において高段者審査会が執り行われ、七段を受審し、合格をいたしました。当日は、六段から八段の受験者があり、この日のために相当鍛錬を積み重ねてこられたと思います。

## 高段者審査会に臨んで

長野県支部 古武道唯心会  
夢想神伝流居合道

小松 秀敏

平成二十九年四月二十八日、高段者審査会にて、居合道六段の昇段審査を受審し、合格させて頂きました。これまでご指導していただいた目黒信良先生、平林裕蔵先生を始め、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

普段の稽古を本番と思い、礼法・刀法・目付・気迫・残心等に注意し繰り返し修練してきたつもりでしたが、目黒先生には厳しい指摘ばかりで、良しとは決して言われませんでした。また私生活においても自治会長などの仕事もあり審査会間際は稽古ができない状態で、当日を迎えました。審査会ではなんと一番目の受審者。緊張と目黒先生にご迷惑をかけてはいけないというプレッシャーの中で、六名の審査員の先生方の前に立ちました。

夢想神伝流の奥伝から五本の技で演武開始。ゆっくりとした礼法、十分な間合い・相手を意識した目付と力強い技・残心に注意して演武終了。審査していただいている先生方に満足いただけただろうか、自分の技はまだまだなのかと自問自答。受審者全員の演武が終わり、審査員の先生方が集まり、可否の話合いがされているようで、およそ二十分あまり。受審者全員に目黒審査委員長から各々への講評、そして濱田先生から可否の発表。

六段合格は通過点と思い更なる上を目指して更なる稽古を重ね、精進していくつもりです。またこれまでご指導いただいた目黒先生・平林先生の御恩に報いるため、武徳会発展のための協力、後輩への指導・育成にも力入れていきたいと思えます。

## 武徳会高段者審査会に参加して

修童館 金沢道場 長谷川 安輝

私は四月二十八日に行われました高段者審査会で昇段審査を受審し、居合道六段の合格をいただきました。

私が居合道と出会ったのは、今から二十年ほど前になります。当時は武道は全く習ったこともなく、兄弟や親戚が剣道の道具を持っている程度の接点しかありませんでしたが、仕事の関係で居合道と出会う機会があり、本格的に稽古をするようになりました。

二十年の間には、体調不良などで一時的に居合から離れていた時期もありましたが、武士道の精神、日本刀の魅力、全ての事柄についての奥ゆかしさなどが自分には心地良く、今まで続けることができました。

武徳会本部での昇段審査は二回目ですが、今回は高段者審査会ということで武徳祭の前日に、しかも諸先生方の前で一人づつ技を披露するとのことで大変緊張し、何点かの御指摘も受けました。受審中は緊





高段者審査会 合格者

居合道・居合術

六段 小松 秀敏

六段 相馬 啓二

六段 長谷川 安輝

七段 川 寄 太久馬

七段 石 本 一平

空手道

八段 中 西 忠直



平成29年4月30日 国際部武道錬成大会 旧武徳殿





第一回

伊勢神宮古武道奉納演武大会

日時 平成二十九年六月四日

場所 伊勢神宮「内宮参集殿」

主催 一般社団法人大日本武徳会



## 挨拶

一般社団法人大日本武徳会  
第一回伊勢神宮奉納古武道演武大会  
開催に当たりご挨拶申し上げます。

深い緑に囲まれる此処五十鈴川のほとり  
幽玄の神威 悠久二千有余年  
天照大御神 御魂鎮まります 伊勢皇大神宮において

格別のお許しを戴き  
一般社団法人大日本武徳会  
第一回伊勢神宮奉納古武道演武大会が

全国津々浦々から各も多数の宗家、先生方のご賛同を戴き、盛大に開催されますことは、此上もない慶賀の至り、お喜ばしい限りに存じます。

宗家、先生方に於かれましては、日本の精華、武士道に培われた、我が国古来の武術切磋琢磨、磨きに磨かれた伎倆を十分に発揮戴き

天照大御神 御魂にご奉納戴き  
優秀の美を飾られますようお祈り申し上げます。

## 弥栄

平成二十九年六月四日  
一般社団法人大日本武徳会  
副総裁 桑原兵充

## 伊勢神宮奉納古武道演武大会の意義

濱田 鉄心

初夏の青空に広がる太陽の光の中、悠久の流れを持つ五十鈴川の清  
 廉に魅了されながら由緒ある伊勢神宮の宇治橋を渡り、本会は第一回  
 の奉納古武道演武大会の歴史的な第一歩を踏み出した。ここから宇治  
 橋より見渡せる伊勢の森に、そよ風と共に靡いていた国旗が印象的で  
 あった。伊勢神宮内宮の荘厳な趣の中、美しき参集殿において畏れ多  
 くも天照大御神の御神体に対して本会の先生方が見事に熱の籠った奉  
 納をされたことに敬意を表する。本会が目指すところの日本伝統武道  
 の保存継承には、武術歴史や伝統文化の総合的な理解促進とも密接な  
 関係がある。元より伊勢神宮は日本建国以来の古代歴史と深い関係が  
 あり、日本精神文化の原点がここにあると言っても過言ではない。我  
 が国の歴史の中で三種の神器と皇室の歴史については万人の知るべき  
 ところではあるが、そのうちの一つである神聖な八咫の鏡が祭られて  
 いる伊勢神宮において、奉納の機会が与えられたことは武道を志す者  
 にとって大きな名譽であると言わねばならない。

内宮の神楽殿における厳かに美しくも力強く見事な特別大大御神楽  
 の御祈禱に我々は心を動かされ日本の深遠な伝統に対して深い感銘を  
 受けた。

それに引き続きいて参集殿における開会式は、桑原副総裁の激励のご  
 挨拶と共に開始され、参加者が奉納の本来の意義に対して一段と強い  
 決意を持って臨んだことが印象に残る。

市村先生の見事な祓いの儀に始まり、山口先生の卓越した納めの儀  
 に至るまで、本会の先生方の奉納演武には、気迫が籠っていたと同時に

に入退場にもその残心と節度ある規律が光っていた。

私達の奉納演武に対して、伊勢神宮内宮神楽殿の宮掌である菱川氏  
 は、肅々と奉納を賜り感謝するとの謝辞には熱い思いが込み上げてき  
 た。

奉納演武が無事滞りなく終わり、閉会式が参集殿会議室において厳  
 肅に執り行われ、その後には御正宮における御垣内参拝が許された。

伊勢神宮のひっそりとした森の中を本会の先生方が一丸となり一歩  
 一歩、歩きながら整然と移動されたことが印象に残る。御正宮の中の  
 石畳は俗世の穢れを落とす如く静かな佇まいであり、我々の清廉な禊  
 を促すのに充分であった。一同が心を新たにして御神体に向かい共に  
 祈りを捧げることが出来たことに感謝したい。

今回の奉納古武道演武大会の実現には、一年以上の年月と多くの準  
 備が必要であった。伊勢神宮宮司鷹司尚武氏並びに内宮神楽殿の宮掌、  
 菱川氏には格別のお取り計らいをいただき心より感謝申し上げます。  
 さらに本会役員一同、参加者一同が威厳をもって本会始まって以来の  
 前代未聞のこの事業遂行に際し、精力的に協力し立派に奉納の儀を果  
 たすことが出来たことに安堵すると共に、本会の存在価値を広める機  
 会に恵まれたことを誇りに思う。本会にとって歴史的な始まりとなっ  
 た伊勢神宮における奉納演武大会が末永く継続されることを祈ると共  
 に全ての方々のご健康とご発展を祈願したい。

# 神宮

理法塾 木下 賢司

日本人の原点であり、「心のよりどころ」といわれている伊勢神宮・内宮。その神域にある参集殿で、第一回奉納古武道演武大会に参加・演武出来たことは、本当に名誉なことであった。

ところで、日に何万人とも言われている参拝者の数。何故、この時代にこれだけの人々がこの地に来るのか。答は明確である。現在の我々が失いつゝある心、即ち感謝の気持、物を大切にすること、この地に来れば蘇るから、又人間としての本来の姿に帰る事が出来るから生涯を通じて何度も足を運ぶのであると考える。我々武道を学ぶ者や指導する立場にある方々は、日々研鑽の中に（他の人々と比較すると）その心が未だ残っている。でなければ道を極めることは困難だと思ふ（未熟な私が申し上げ失礼だと思ひますがお許の程）。その意味でも、己を振り返って見つめ直す神域での第一回日の大会の意義があると思ふ。最後になりますが神宮で演武出来る事を御世話いただいた本会の先生方、御指導いただいた師（二色先生）、都合で参加出来ないが演武に協力いただいた塾生の方々に心から感謝します。

## 第一回伊勢神宮奉納 古武道演武大会に参加して

神和会 山口 峻輝

二十一年に一度の式年遷宮（平成二十五年）を終えて、新しくなった伊勢神宮「ご祭神は天照大御神」皇室の皇祖神であり、太陽にも例えられる高天原の最高神であります。

歴史をみると、およそ二千年前「天照大御神は第十一代垂仁天皇の時に皇女倭姫命とともに永遠の宮地を求めて、各地を旅していました。五十鈴川の川上で理想の大宮地へたどり着き、天照大御神は倭姫命に命じて、この地へご鎮座されました」との事です。

その伊勢神宮にて、しかも第一回の奉納演武大会に「納めの儀」の大役を仰せつかり、この上ない名誉と喜びを与えて戴き、一般社団法人大日本武徳会の役員の方から御礼申し上げます。

この喜びを胸に秘め、師の云われた「只だひたすらに、この伝承された形を守れ、さすれば専念錬磨精進の暁には自づとその深慮なる理合が了解出来る。最も敬虔なる信念を日常寸時も忘れる事無く肝銘し不退の努力を致しなさい」の言葉を守り、日々の稽古に精進して参ります。

「術に終期なし、死を以って終りとす」



# 一般社団法人大日本武徳会大阪府支部

## 平成二十九年

### 住吉大社奉納演武大会開催さる

大阪府支部長 村田 雅人

一般社団法人大日本武徳会大阪府支部住吉大社奉納演武大会が平成二十九年三月二十六日（日）、本部ご後援のもと住吉大社境内、住吉武道館にて開催されました。

#### 〔祓い・玉串奉奠〕

当日早朝、住吉大社神楽殿において演武の無事遂行を祈願し、祓い、神楽舞ならびに副総裁 桑原兵充先生、大阪府支部長 村田雅人による玉串奉奠がなされました。

#### 〔奉納演武大会〕

続いて住吉大社境内住吉武道館にて奉納演武大会が開催されました。今回は剣道場と柔道場の仕切りを取り外し、道場を広く活用致しました。

剣道場には国旗と住吉大神の書軸ならびに住吉大神の画軸が掲げられ、誠に神々しい雰囲気の中、支部長の開会宣言に引き続き、国旗に

礼、君が代斉唱、住吉大神神前に礼、大日本武徳会本部より来賓としてご臨席を賜りました桑原兵充先生、公益財団法人住吉名勝保存会住吉武道館長 東郷信行先生の心のこもったご祝辞を賜りました。また、本部理事本会副支部長 山本楠城先生にもご臨席を頂きました。また、石川県支部井本敏弘先生ならびに名城大学体育会居合道部小林信之先生、同部員の皆様にも特別参加として花を添えて頂きました。

#### 〔祓いの儀〕

虚心流居合剣法 範士八段 山本楠城先生による重厚なる祓いの儀がなされました。

#### 〔奉納演武・午前の部〕

・大弓術日置流印西派巻藁体配・北川茂先生ご一門による大弓神事がなされました。今回も古式に法り装束を着装されての演武が励行されました。格調高く立派な神事で行いました。

・神伝円心流居合剣法・森内一蔵先生の神事、試斬、ならびにご一門による居合演武が行われました。特に、据物斬りは故久保田皎先生が以前の会報に、その背後に剣法の裏付けを有する座禅の観法修行道でもあり、正に武道即仏道であるとの故小橋日感師のお言葉を紹介されておられました。森内先生ご一門にもその精神が強く観せられ大変立派でございました。また、合わせて森内先生の空手演武も行われその迫力にも肝銘を受けた次第であります。

・虚心流居合剣法・山本楠城先生ご一門による誠に安定した重厚な形演武が行われました。

・日置流半弓術・北川茂先生ご一門による日置流半弓術が演武され、前回同様錬度が高く、道場の空気が張り詰めた緊張感漂う立派な演

武でございました。

・柳生心眼流居合術…小林信之先生ならびにご門下による居合術の表演がなされました。誠に見事な気迫と気合、技も立派で力強い演武でございました。

・無双流居合剣術…太田淳一先生の多数の門人の方々による各種勢法の演武は優美しくも法に則り見事でありました。お弟子さん方は毎回進歩著しく、女性や青少年のご参加もあり将来の大成を確信いたしております。

・虚心流居合剣法組太刀居合…北川茂先生ご一門による組太刀が演武されました。実戦的で迫力があり錬度も高く立派な居合剣法でございました。

・正統無双直伝英信流居合兵法…木下公子先生ご一門による演武でございました。大江正路先生は大きな居合を重視されておりましたがその風趣を強く感じる立派な居合でございました。お弟子さん方々も良く教えを守り技の伝承が行き届いており、伝系を正しく継承して行かれることを確信致しました。

〔懇親会〕

今回は出席者が多く、一階ロビーを解放、第一研修室、第三研修室に分散致しましたので会議は割愛し、必要事項ならびに質問の受付のみ午後の開始時に伝達、ご対応致しました。

〔奉納演武・午後各部〕

（柔術模範演武）…範士十段 桑原兵充先生、教士七段 高島伸幸先生による心伝流柔術模範演武がなされました。桑原先生には誠に高齢にもかかわらず支部活動には必ずご出席を賜っております。感謝筆舌

に尽くし難く、衷心よりご健康を念じてやみません。いつものながらの入神の演武、誠に斯界の至宝と存じます。

・心傳流柔術一般部…北野隆雄先生らによるすばらしい心傳流柔術演武がなされました。また、毎回、心傳流柔術青少年部として十名を超える青少年、幼年部を引率されての演武、立派な師のご指導のおかげがえのない徳目として将来に引き継がれます。誠に喜ばしい限りでございます。

・無双直伝英信流居合道…大誠会村田雅人一門、基本技演武を致しました。

・素心流居合抜刀術…宮園國男先生による豪快な試斬がなされました。本来は剣道、居合道ともに斬れることを前提とし、試斬はその刀術を体現するものであります。先生の演武は正にその規範を示すものかと思えます。

・無双直伝英信流居合道…尾ノ



上克己先生による年齢を感じさせない立派な演武がなされました。  
 ・無双直伝英信流居合兵法・誠慧塾樋口友視先生ご一門による演武がなされました。師伝に忠実かつ規矩正しい演武でございました。  
 ・無双直伝英信流居合術・石川県支部井本敏弘先生による力強く錬度の高い見事な演武でございました。

#### 〔納めの儀〕

範士八段 神伝田心流居合剣法 森内一蔵先生による納めの儀が行われました。

おわりに、大会の準備や進行、終了後の処理にご協力を頂きました武道館員の皆様方に深く感謝致します。

#### 〔出席〕

演武参加者 七十五名（一般の部：六十三名、青少年の部：十二名）

一般社団法人大日本武徳会の今後の更なる発展と各位の武徳に栄光あらんことを祈念申し上げます。乱筆乱文ご容赦下さい。

文責 大阪支部長 村田雅人





## 第二十三回宮島嚴島神社奉納古武道演武大会によせて

大会実行委員長 藤江 成美

平成七年より始まりました宮島嚴島神社奉納古武道演武大会も、今回で二十三回を数える事となりました。始まりは、県下の武道流派、団体の交流、研鑽の場として平生は立ち入る事の出来ない国宝嚴島神社祓殿において、奉納演武を遣らせて頂くと言う事で始まったと聞きしております。其れから二十二年、その嚴かで神聖な場での演武は、多くの演武者の共感、感銘を得る事と成り、今では全国からお集まり頂く大会と成っております。神の島、宮島その中でも世界遺産であります嚴島神社にて演武を行える喜び、緊張感、参加した者でなければ味わえない物であります。一流派、一団体に国宝祓殿の場を占有して頂き、十分な演武時間を確保しております。武種によつては、他の大会に参加したくても許された演武時間が短い為に、参加できない事も有るやに聞いておりますが、この大会におきましては、その流派、団体が必要とする時間は確保する事としております。又、神前の方向も含めて祓殿の周囲全てが回廊と成っておりますので演武者、大会関係者のみならず、参拝者が自由に見学出来る事と成っております。此の事が本大会の人気の所以の一つである事かもしれません。平素の稽古、精進の成果を存分に発揮し又正面に鎮座されます嚴島神社の三人の神様からのお言葉を頂き、次なる年への精進の糧としております。

然に決定された様であります。七回大会からは、嚴島神社様が優先的に六月第一日曜日を確保して頂く事と成り、慣例と成っております。しかしながら、今回は、同じ日に本部主催の新たな大会が、開催される事となり、毎回参加をして頂いております流派、団体の皆様には、ご心配をかける事と成つて仕舞いました。此の為に広島県支部主催として執り行つておりました本大会も今回は、大会実行委員会主催として地元関係者のご助言も受けての開催と成りました。之は、大会参加者の激減を予想し、武徳会以外の流派、団体への参加要請を可能にするためであります。其れを持ちまして二十団体の参加を確保したいと考えた次第であります。之は又、開催当初の経緯を知る神社関係者及び大会関係者に取りましては、あるべき姿に戻つたと言う事であつた様です。そもそも広く大会の門戸を開き、啓蒙活





動とし同志を募る為には、しごく自然な事でありました。久しぶりに他の団体への案内をし、六団体の内諾を取り付けておりましたが、当日六時に千人規模のコンサートが開催が行われる事と成り、四時には全ての撤収を行う必要が出て参りました。その為には、一団体の必要時間を申込順に計算してみますと十五団体にギリギリで有りました。已む無く武徳会以外の参加団体は、一団体としなくてはならなくなりました。折角、参加の意思

を頂いておりましたのに申し訳ない事でありました。今後の大会への参加優先と考えております。参加団体の制限を考慮しなくてはならなくなりましたので、此れ又初めての試みとしまして今後の本大会への参加者と成って頂くべく多くのサポーターへのお声掛けを致しました。集計してみますと七十名の方々が参加下さいました。演武者を上回る見学者に演武をする方々の気も益々燃え上がり、大変良き演武会であったと神社関係者からもお褒めの言葉を頂きました。

ハプニングと申しますか、予定外の事も発生いたしました。祝辞を頂く予定で有りました宮司の父君と大会会長であります支部長の御母堂様が相次いで逝去され、忌明け五十日祭が済むまでは神社に立ち入る事が出来なくなりました。その為に祝辞を急遽森内先生、為石先生、宮園先生にお願いする事に成りました。急な指名にもかかわらず流石に皆様、立派な祝辞を頂く事が出来ました。

物故者への黙祷を行い、大会初参加の三団体の紹介を行い、演武開

始と致しました。本部役員のみならず大会会長、嚴島神社宮司の不在の為ではないのですが、集合写真を撮ることなく演武を始めて仕舞いました。少し四時撤収の件が、頭の片隅に有ったのでありましょう。幸いにビデオカメラを回しおりましたので其処から記念の画像は、あらかた抜き出せました。演武では、地元支部の中西会の親子孫三代の空手演武が、微笑ましくも鮮やかな型を披露しておりました。今年の京都昇段審査で範士八段を印可された中西先生も愛娘と愛孫の演武を目を細めて見守っておりました。良き光景で有りました。

二十流派、団体の演武を延べ七十名のサポーターの見守る中で遣り終える事が出来ました。天候にも恵まれ、人にも恵まれ参加者全員の心に残る良き大会であったと自負しております。千人のコンサート観客の押し寄せる前にすべての予定を心置きなく残さずにやり終えて無事に撤収を終え、昨年来の恒例となります天婦羅店に場所を移し、打ち上げと相成りました。無論、時間の許す方々の集いで有りましたが、宴たけなわで中締めとし、支払いを済ませてみると昨年を上回る参加であったことが判明いたしました。最後まで御付き合い頂き、喜んでお帰りいただいた様で主催者冥利に尽きる物でありました。

来年も六月三日開催が決定しております。今年同様に本来あるべき姿の実行委員会方式で執り行いたいと考えております。心を同じくする同志の皆様の参加をお持ちしております。





フ  
ラ  
ン  
ス  
武  
徳  
祭  
  
国  
際  
青  
少  
年  
武  
徳  
祭

日時 平成二十九年八月五日

場所 クレルモン・フエラン市アルテニウムスポーツセンター

主催 一般社団法人大日本武徳会





## ご挨拶

この度、フランス武徳祭・国際青少年武徳祭が、フランス・クレルモン・フェラン市に於いて盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

本大会を通じて、ご参加の各国の武道家の皆さんが伝統的な日本文化に深い理解を持つことにより武道を通じての各国間の交流と親善の絆が一層深まり、世界の平和に貢献出来ればこれに勝る喜びはありません。

さらにこの度の大会は未来を担う青少年育成を目指した真の文武両道の親善交流も企画されているとのことです。異国間の子供たちが武道を通じて得る相互理解の場が武徳会を源泉として幅広く社会に貢献できる青少年を育む機会になることは大変意義深いものだと思います。

終りに開催地フランス支部の今後益々ご発展されますよう、そしてこの大会が多くの成果を挙げるすばらしい大会となりますことを心より祈念申し上げ、私の挨拶と致します。

一般社団法人大日本武徳会

総裁 東伏見慈晃



### ご挨拶

この度はフランスのクレルモン・フェラン市において、大日本武徳会日本代表団、フランス支部並びに国際部の多くの参加者が一堂に集まり威厳高きフランス武徳祭と国際青少年武徳祭が開催されますことは慶賀の至りです。

まず初めにこの大会の開催に精力的なご協力とご支援を賜りました桑原副総裁、竹田 豊団長をはじめとする本部の先生方、ピアンキ市長、アンドレ・コニヤード支部長とフランス支部会員、国際部会員参加者の全ての方々に厚くお礼申し上げます。

一般社団法人大日本武徳会にとって本大会は日頃鍛錬されてきた精神を反映する武道・武術の演武の機会をもたらすのみならず相互の感動を分かち合い友愛を培う事に重要な意義があります。本会は競技スポーツとしてではなくあくまで武徳の哲理と価値観を重要とし、それ故参加者は鍛錬された礼節の規律、尊敬、謙遜、勇気、名誉、誇りそして献身的な態度で臨むことが要求されます。

このフランス武徳祭において総ての参加者がそれぞれの武道種目において最善を尽くすことにより記念すべき大会となる事を祈ると共に、この象徴的な大会がヨーロッパ大陸における揺るぎなき最上の大会の一つとなることを祈ります。

クレルモン・フェラン市の市民公園において我々が共に植樹した桜の木々が毎春美しく開花するとき、私たちはこの大会の為に尽力いただいた方々への感謝の気持ちを思い出し、地球上の人類が永遠に持ち続けなければならない希望の光を大切にすることの尊さに思いをはせることでしょう。

最後に、この大会が全ての参加者、及び関係者の皆様の良き思い出として心に刻まれる機会になりますことを祈りまして私の挨拶と代えさせていただきます。

一般社団法人大日本武徳会

代表理事 濱田鉄心



## 慶 祝

フランス

日 本

2017年8月永久友好を祈念してフランス武徳祭・国際青少年武徳祭  
フランス国・クレルモンフェラン市において開催されます。  
おめでとう御座います。心から成功をご祈念申し上げます。

自由・平等・博愛・の精神・ジャンヌ・ダルクの心意気に培われた  
フランスの青少年と武士道に育まれた日本の青少年の交流は素晴らしい  
結果を得るものと確信致します。

大会開催に当たりご尽力賜りましたオリビエ・ビアンキ市長閣下、  
アンドレ・コニヤード・フランス支部長様、一般社団法人大日本武徳  
会代表理事濱田鉄心先生始め諸賢に感謝厚く御礼申し上げます。

2017年8月

一般社団法人 大日本武徳会

副総裁 桑原 兵充





## 祝辞

フランス武徳祭の開催を心よりお慶び申し上げます。

今大会は 20 か国の国際部会員が参加し、日本伝統武道の演武が行われると伺っております。国際的なレベルの武道を通じた青年交流を実施することは、重要な意義があり、青少年の育成にとっても大切なことであると考えております。

武徳会は 2007 年米国で第 1 回世界青少年武徳祭を開催したのをはじめ、世界各地で武道国際交流に取り組まれています。

今回、フランスでの開催であり、日仏友好がさらに促進されるものと期待しております。

フランス武徳祭が所期の目的を達成し、青少年のさらなる交流・育成の輪が広がるよう祈念し、祝辞とさせていただきます。



### 祝辞

仏のクレルモンフェラン市で2017年フランス武徳祭並びに第4回国際青少年武徳祭が開催されることをお祝い申し上げます。

この大会は主に欧州を中心に20か国に及ぶ成年と17歳未満の青少年の国際大会と伺っており、日本からも小・中・高生が参加されるようで、未来を創る若者が武道を通して世界平和を希求し国際親善を深める絶好の機会となることを願っております。

2020年東京オリンピックでは新しく「空手」が正式種目に認められました。柔道やテコンドウとともに世界の若者が東京を目指して切磋琢磨する有意義な大会になることを期待します。

2017年8月吉日

東京2020組織委員会会長

元首相 森 喜朗



### **Chers Participants au congrès DNBK,**

En accueillant le congrès à Clermont-Ferrand du Dai Nippon Butoku Kai et en particulier, la rencontre internationale pour les jeunes, le Youth Butoku Sai, c'est bien plus que la simple occasion des démonstrations traditionnelles du Butoku Sai à laquelle nous allons assister. Le Youth Butoku Sai est un événement extraordinaire qui prévoit de rassembler à Clermont-Ferrand, de jeunes budoka du monde entier. Ces rencontres sous la forme d'échanges culturels, linguistiques et de rencontre avec la tradition des arts martiaux japonais sont un formidable moyen de tisser des relations fortes entre les jeunes participants. C'est le fondement même de notre avenir qui se construit à travers cette manifestation. Un avenir de paix mais aussi de respect, de discipline, d'esthétique et d'harmonie sociale comme cela est prôné par le DNBK. L'implication des jeunes générations à un avenir commun et pacifié, est l'essence d'une vie en bonne intelligence de tous les êtres humains sur notre planète. Dans les temps incertains que nous vivons actuellement, je ne peux que me réjouir de ce que cet événement se déroule à Clermont-Ferrand. C'est un message fort pour notre avenir commun et pour notre ville. Je tiens à remercier les dirigeants de France Butoku Kai pour l'organisation de cet événement majeur. Les principes sportifs et philosophiques qui accompagnent la pratique des arts martiaux traditionnels sont une évidence. Ce congrès est l'opportunité de renforcer les liens qui unissent notre pays au Japon, à travers la célébration de différents traités centenaires mais aussi localement, à travers l'inauguration du parc japonais dit parc de la Paix. Ce parc comprend une promenade de cerisiers de type Sakura yoshino ainsi qu'une pierre commémorative en lave des volcans d'Auvergne. Ce sont sur ces éléments symboliques, ces échanges qui se nouent entre les générations, ces amitiés, ce respect et cette compréhension des différences que va se construire notre avenir commun.

Je souhaite à tous les participants un excellent séjour à Clermont-Ferrand et un très beau congrès.

**Olivier Bianchi**

**Maire de Clermont-Ferrand**

**Président de Clermont Auvergne Métropole**

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'Olivier Bianchi', written in a cursive style.



## 祝辞

フランス武徳祭が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

クレルモン・フェラン市はフランス最古の英雄として知られる、ヴェルキンゲクスの彫像が聳え立つ街であり、フランスで初となる武道祭の開催を記念する、理想的な場所であります。

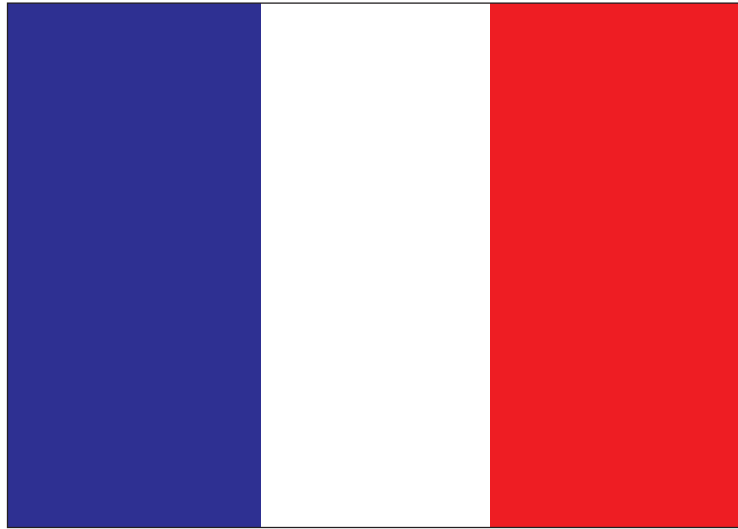
武道は元来、戦いのための技術、すなわち「武術」と呼ばれるものでしたが、現在では人間形成を目的とする「武道」として発展し、世界各国の小さな町にも道場が建設されるなど、如何なる国や文化、時代の中にあっても、あらゆる人々が理解し、敬愛することができる、最も世界への普及が成功している日本文化です。武道の国際普及が日本に対する敬意をもたらしていると言っても過言ではありません。

武道においては礼儀や人を敬う心が求められます。厳しい鍛錬は、単なる力の競い合いを目的としたものではなく、己に打ち克つために必要な強い体と心を磨くものです。武道は人生を尊び、互いを育むものであり、世界中の青少年が日本の武道を通じて交流を図ることは、国際文化交流の深化と青少年の健全育成のために意義深いことです。武道を通じて育成された人材が、社会において活躍し、国の発展と人々の相互理解に寄与することを期待します。

関係各位の並々ならぬ御尽力に対して心から敬意を表すとともに、武徳祭の御成功を祈念いたします。

在リヨン領事事務所長

長澤 秀一



  
Conseil Régional Auvergne-Rhône-Alpes  
Le Président

le 6 juin 2017

Le Dai Nippon Bunko Kai, organisme gouvernemental japonais chargé de la formation des maîtres professionnels d'arts martiaux et de préserver la tradition des arts martiaux, a confié cette année l'organisation de son congrès mondial à l'Académie Autonome d'Aikido Kobayashi Hinokusa, située à Bourg-Argental en région Auvergne-Rhône-Alpes. La ville de Clermont-Ferrand aura ainsi le grand honneur d'accueillir le Congrès mondial de la Dai Nippon Bunko Kai.

Des centaines d'entraîneurs internationaux ainsi qu'une centaine de jeunes pratiquants seront présents du samedi 2 au dimanche 4 août, pour promouvoir les arts martiaux japonais et les valeurs qui les caractérisent : le respect, le courage, l'honnêteté, la modestie, la recherche de l'harmonie et la sérénité.

Je suis convaincu que la réussite ultime de ce Congrès international rencontrera un succès comparable à celui de 2015 qui s'est déroulé dans l'excellente capitale japonaise du Japon, Kyoto. Clermont-Ferrand va devenir cet été la capitale française et mondiale de l'authenticité des arts martiaux et de ses valeurs.

J'adresse aux organisateurs mes meilleurs vœux de succès pour ce grand événement mondial qui va réunir 27 nationalités autour d'objectifs aussi fondamentaux que le développement de l'amitié entre les peuples, la fraternité et la promotion de la paix dans le monde.

  
Laurence MALQUIER

  
Cohésivité de proximité, le Conseil départemental soutient, sur l'ensemble de son territoire, un sport pour tous, un sport qui rassemble et conforte les liens sociaux, un sport qui cristallise la fierté territoriale et qui véhicule ces valeurs qui font les grands champions comme les grands hommes.

Ces valeurs de solidarité, d'esprit d'équipe, de fair play ou encore de travail sont à la base de tous les sports et particulièrement de ces disciplines qui font du sport un art de vivre et une philosophie à part entière.

C'est pourquoi, à l'heure d'accueillir de grands maîtres de Budo Sei sur notre territoire et de célébrer l'amitié franco-japonaise, le Conseil départemental est heureux d'accueillir France Shibu DMBK ID et Kobayashi Hinokazu Aikido Ryu dans l'organisation d'un programme de rencontres et de démonstrations qui sera l'occasion de renforcer les liens qui nous unissent et de promouvoir ces disciplines de corps et de l'esprit auprès de la jeunesse pyrénéenne.

Jean-Yves GOUTTEBEL  
Président du Conseil départemental du Puy-de-Dôme

  
Département de la Loire  
Le Président

Saint-Etienne, le lundi 22 mai 2017

Messieurs et Mesdames,

Les arts martiaux sont la voie de l'honnêteté, de l'honnêteté, du courage et de la sagesse. C'est en cela que réside toute la substance de cette discipline qui inspire respect et espoir.

Aussi, le Département de la Loire est très honoré de soutenir le congrès mondial du France Bunko Kai qui rassemble les plus grands experts des arts martiaux japonais et qui permet la rencontre d'une centaine de jeunes venus du monde entier.

Après Virginie Bouch et Kyoto, Clermont-Ferrand a l'honneur privilégié d'accueillir, du 2 au 4 août prochain, l'équipe des arts martiaux de 27 nations dont l'ambassadeur est le partage des valeurs du Budo ainsi que la promotion de l'amitié entre les peuples.

A cette occasion, je vous salue la mobilisation de l'ensemble des membres de l'Académie Autonome d'Aikido Kobayashi, et particulièrement son maître André Cagnard, ainsi qu'exprime toute une admiration pour le Dai Nippon Bunko Kai, qui par son action et son dynamisme est une référence majeure au sein de la communauté mondiale des arts martiaux.

Civilité et respect sont de ce congrès, je souhaite aux participants de riches moments d'échanges, de performances et de convivialité et adresse aux organisateurs tous mes vœux de réussite pour cette manifestation qui sera, je n'en doute pas, un magnifique succès.

  
Bernard BONNE

  
Le Puy en Velay  
Le 9 juin 2017

C'est un honneur pour moi de partager ces quelques mots avec vous. Je veux tout d'abord, remercier très chaleureusement l'ensemble des organisateurs pour cet événement extraordinaire rassemblant des délégations du monde entier autour de la pratique des arts martiaux.

Merci à vous tous, jeunes et adultes, qui contribuez à préserver et promouvoir les disciplines martiales et plus particulièrement les valeurs qu'elles impliquent : respect, partage, transmission, humilité.

L'engagement que vous prenez dans la pratique de cette discipline contribue à partager des valeurs au-delà des différences, et vous le saluez aujourd'hui, de développer l'Amitié entre les peuples et d'être acteur pour la paix dans le monde.

Très bon congrès à tous.

  
Bernard BONNE

  
Valérie FOURNEYRON  
Associée titulaire de la Section des Sports, de l'Éducation populaire et de la Vie Associative  
Députée de la 1ère circonscription de Seine-Maritime

Paris, le 17 juin 2017

A l'occasion des aikidō du monde entier engagés dans le France Bunko Kai, je souhaite chaleureusement la bienvenue dans notre pays et formule le vœu que cet événement soit à la hauteur de leur travail acharné et de leur investissement pour se hisser à un tel niveau d'expertise et d'excellence dans leur discipline.

Notre pays peut être fier d'accueillir d'accueillir cette grande compétition à Clermont-Ferrand. Elle promet à chacun et chacune, spectateurs, athlètes, dirigeants de la Dai Nippon Bunko Kai, officiels et bénévoles, des émotions sportives inégalées, magnifiques par la qualité et le professionnalisme de l'organisation et par le caractère d'accueil auvergnat.

Je tiens également une pensée particulière pour les aikidōka de l'Académie d'Aikido de Normandie à qui je souhaite pleine réussite. Je formule le vœu que, par-delà les podiums, leur participation au France Bunko Kai, leur permettre de revenir en leur territoire avec des souvenirs gravés dans leur mémoire et l'envie d'être toujours plus loin dans la maîtrise de leur art.

Je tiens,  
Valérie FOURNEYRON





**Chen Collignon BUNCHA**  
Chen Collignon International de Dai Nippon Bunkai Kai, D.N.B.K.K.

Pour commencer, je vous remercie de votre courtoisie de participer à cette manifestation, en août 2017, à CLERMONT FERRAND en commémoration de 100ème anniversaire de l'amitié franco-japonaise, du traité de 1858, du traité d'amitié de commerce entre la France et le Japon de 1867.

Je remercie également les organisations officielles ainsi que les directeurs du D.N.B.K.K. qui sont là pour vous recevoir et qui ont à cœur de vous offrir un séjour agréable et enrichissant et d'encourager pour développer des relations amicales entre les peuples et les pays. J'espère que toutes les personnes présentes, en particulier les membres de la délégation française, participeront avec honneur et fierté à cette manifestation.

Merci donc, par le biais d'une meilleure compréhension de la culture propre au budo traditionnel japonais et de ses principes philosophiques, d'essayer de promouvoir et de développer des valeurs comme l'équilibre, la sagesse, le respect, la discipline, l'harmonie sociale et la paix internationale.

Veuillez agréer, Madame, Monsieur, l'expression de mes sentiments distingués.



Alain TORRENT  
Maire de Clermont



**Jacqueline BILES**  
Députée 2007-2012  
Maire de Villeneuve de la Balbe  
Vice-présidente de la Commission Urbaine  
Programme Métropole Métropole

Chers membres français et délégations internationales de Dai Nippon Bunkai Kai,

Je tenais sincèrement à féliciter toutes les initiatives prises par les différents délégations internationales afin de développer DINKS.

Je soutiens personnellement votre prochaine manifestation de Clermont-Ferrand pour la commémoration de 100ème anniversaire du traité franco-japonais de 1868.

Vous souhaitez une franche réussite pour cette prochaine manifestation, je vous prie d'accepter l'expression de mes cordiales salutations.

Jacqueline BILES




Mouton, Monsieur

Madame, Monsieur,

Cette année, la Ville de Clermont Ferrand accueillera de mercredi 2 au dimanche 6 août 2017 le Congrès International de la Dai Nippon Bunkai Kai, c'est un événement majeur.

La Dai Nippon Bunkai Kai est une organisation gouvernementale japonaise chargée de promouvoir la tradition des arts martiaux et de former les maîtres professionnels de cette discipline. Ce sont donc de nombreux experts internationaux et de très nombreux pratiquants qui seront présents afin de promouvoir les arts martiaux japonais et les valeurs morales qu'ils portent: le respect, le courage, la droiture, l'honnêteté, la sagesse et la recherche de l'équilibre.

Ce congrès va réunir, sans doute, un grand nombre, Clermont Ferrand aura le temps de ce congrès la capitale française et mondiale des arts martiaux et des valeurs qu'ils portent.

Je remercie les organisateurs d'avoir choisi notre région pour ce grand événement mondial qui contribuera à notre attachement à la paix et à la fraternité entre tous les peuples du monde.

Adrien GOUTEYRON




**Daniel GERBAUD**  
Maire de Saint-Etienne

Les Lilles, le 9 Juin 2017

Aux participants et aux membres du Congrès International de la Dai Nippon Bunkai Kai,

Je salue la communauté internationale des Arts Martiaux tout mes vœux de réussite dans l'organisation de ce congrès international de la Dai Nippon Bunkai Kai, qui se tiendra à Clermont-Ferrand en août 2017.

La pratique des arts martiaux traditionnels, intouchables et impénétrables, promeut les valeurs de respect, de sagesse et d'harmonie. Pour chaque individu comme pour chaque peuple, au-delà de la pratique sportive, c'est un art de vivre qu'il faut mettre à l'honneur.

La France a la chance d'accueillir un événement mondial de premier ordre lequel est un esprit d'engagement, de fraternité et de paix unifiée sur tous les participants.

Je tiens à exprimer ici mon profond attachement à ces valeurs qui y amène nous à l'harmonie, et donc tout mes vœux aux membres du congrès et à tous les délégations qui participent à leur diffusion dans le monde.

Je profite de cette occasion pour me réjouir de l'existence du club d'Aikido Hakuyō dans notre ville de Lille au cœur de la métropole du Grand Paris, dont quelques représentants seront présents à Clermont Ferrand.

Renouveler mes vœux de réussite dans le déroulement de ce congrès et son émergence à l'égard de l'engagement associatif et humanitaire de tous les participants, je vous prie d'agréer, Madame et Messieurs les membres du congrès, mes sincères salutations.

Le Maire,  
Premier Vice-président du Conseil Général de la Région de Saint-Saëns Denis

Daniel GERBAUD



**Gaël FERDRIAN**  
Maire de Saint-Etienne  
Président de Saint-Etienne Métropole

Saint-Etienne, le 14 Juin 2017

Les arts martiaux japonais perpétuent les échanges entre les peuples et unissent les nations parce que dans le monde à travers la joie et le partage des valeurs portées entre autres par les compétitions sportives.

Du 2 au 6 août prochain va se tenir la France Bunkai Kai à Clermont-Ferrand. Un groupe important d'arts martiaux français et étrangers y prendra part et y fera une démonstration. L'ensemble de ces pratiquants sont rattachés à l'Académie Autonome d'Aïkido (AAA), école internationale d'Aïkido dirigée par Cogaard Hamaki.

Cette manifestation d'envergure internationale qui va rassembler des budoïstes du monde entier affiliés à la Dai Nippon Bunkai Kai, viendra récompenser le travail de tout un club, d'une figure emblématique du budo : Cogaard Hamaki. L'organisation d'une telle manifestation va permettre de valoriser et de donner une meilleure visibilité à cette discipline, grâce à qui la popularité de cette partie insignifiante de la culture japonaise continue de se développer tout en France que dans le reste du monde.

Je tiens au nom de la Ville de Saint-Etienne et du conseil municipal, à vous remercier tout mes vœux et à vous encourager pour l'organisation d'une telle manifestation qui contribuera à nos vœux de rapprochement de tous les peuples.




**Yves ROBERT**  
Maire de Rouen

Dear French Members and the international delegates of the Dai Nippon Bunkai Kai,

Having martial proficiency requires discipline, dedication and hard work. These abilities are central to life, sport and competition, especially martial arts, give the best possibility to learn and improve them.

In Rouen, we are dedicated to promote these values thanks our sport public policy. These values we are sharing them with all the delegations which are taking part in the France Bunkai Kai 2017 in Clermont-Ferrand.

Being part of this competition is a privilege for the Normandy delegation. It's an honor for our region and our athletes who will be, in our view, the best representatives of the values we are sharing.

I thank the D.N.K. Harbu organizers for organizing this historic event in France and with all the delegations a passionate and a wonderful competition.

Sincerely



Paris  
22 May 2017

Dear delegates of the Dai Nippon Bunkai Kai,

I am greatly honored to give my warm support to the France Bunkai Kai event.

In some ways, my sport/career was founded on a discipline very similar to the one necessary in martial arts practice, as proficiency becomes intellectually a question of life or death.

I embraced relentless training, getting physically and mentally conditioned to be able to give competent answers to difficulties we might encounter, and facing them with positive challenging spirit. Our actions would become second nature, so that on the day of the match, nothing felt different from the training sessions, to the point to get almost difficult to realize « this time it is for real ». On that very day, as the rocks would lift off, feeling all the power precisely directed, knowing that we're on course, getting precisely inserted into the right orbit, on the right trajectory, destined for the rendezvous with the Hidden Space Telescope, or the Mir Space Station, would give us a feeling of immense satisfaction and bliss. Evidence was, that only thanks to harmonious team efforts and commitment, one could give the best of oneself. Naturally, all this must sound familiar to your martial arts community.

I had the chance to travel these times into space, seeing the world from above, admiring its beauty, and witnessing the human condition, in origin, its conflicts and suffering.

So when the words fell on the surface by the last comments to visit the Moon:

« Here Man completed his first explorations of the Moon, December 1972. May the spirit of peace in which we came be reflected in the lives of all mankind »

May you all well endeavor towards this goal.

All the best,

Jean-François Cleroux  
ESA Astronaut





**Martin MALVY**  
Ancien Ministre  
Membre honoraire du parlement  
Ancien président de la région Midi-Pyrénées  
Président du Grand Figaro

Figaro is an industrial, historical, and open city. It is where the modern jetliner was first invented. It is the birthplace of Jean-François CHAMPOLLION, who opened the gate of knowledge about ancient Egypt's mysteries.

Our athletes are members of the International Japanese organization "Dai Nippon Bunkai Kai International Division". They are proud of it. Our Japanese friends are welcome, and we hope they will be back. Let's develop, through sportsmanship, trades and relations.

Sincerely,

Martin MALVY  
Président du Grand Figaro  
Former Minister





## フランス武徳祭並びに

## 国際青少年武徳祭の旅程報告

平成二十九年八月一日(火)～八日(火)

日本選手団団長 竹田 豊

## 日本時間

七月三十一日(月) 天候 晴れ

日本選手団の団長は理事竹田が務め、渡邊理事、上村理事、中田監事の三名を副団長とした選手団が結成された。先発小松組の中田副団長率いる青少年十一名、大人の参加者二名及び同伴者の一行は、小松空港から一旦羽田空港へ行く。八月一日〇時五十分フルトハンザ航空でフランクフルトに向かう。本会が依頼した撮影カメラマン長島氏は羽田で合流し同乗。

## これより現地時間表記

八月一日(火) 天候 晴れ

小松組は六時にフランクフルトに到着。八時五十五分フランクフルト空港を出发し、リヨン空港へ十時十分に到着した。リヨン空港では国際部の方々が出迎えた。チャーターバスにて今回催す中心地のフランス・クレルモンフェラン市に移動した。到着後、青少年はホストファミリー対面後、移動した。

滞在ホテルはMercure Center Jaude (Luxury Hotel)

関西組は団長竹田、渡邊副団長、上村副団長と関西組補佐渡邊祥正

武道講習会講師及び竹内裕美国際部会員と青少年十二名がオランダ・アムステルダム空港へ向けて十時二十分(日本時間八月一日)関西空港を飛び立ち十五時アムステルダム空港に到着した。十六時アムステルダムからフランス・リヨン空港へ向かう。十七時三十五分リヨン空港到着。

リヨン空港にはフランス支部長・コニヤード範士及びアメリカ支部メーハン範士はじめ多数の国際部の皆さまの出迎えを受ける。チャーターバスにてクレルモンフェラン市のホテルに移動した。ホテルにて関西組青少年はホストファミリーと対面後、ホームステイのため移動した。

八月二日(水) 天候 晴れ

朝食後、アルティミウ大会会場へバス移動。青少年も集合し本部使節団全体会議を行う。昼食後火山公園ツアーに出发する。ホテルに帰り、青少年たちはホームステイ先に向かう。大人はホテルにて夕食。

山本楠城理事及び山本勇武道講習会講師がホテルに到着。

八月三日(木) 天候 晴れ

朝食後、クレルモンフェラン市庁舎にて公式市長表敬訪問。クレルモンフェラン市長 (Olivier Bianchi) より特別表彰を受ける。国際部指導者と合流。昼食前の時間を利用し、ノートルダム・デュ・ポール寺院を見学。市庁舎レセプションホールにて市長と昼食会。昼食後バス移動しポルドームに到着。日本の青少年たちはホストファミリーが引率し合流。十四時DNBK桜パークにて青少年たちも参加し記念石碑除幕式、引き続き記念植樹式に移る。

ホテルに戻りフランス支部と夕食会。井本救護医師ホテルに到着。

八月四日(金) 天候 晴れ

ホテルにて朝食後、施設アルテニュームへ出発。青少年は特別ツアー、ボルカニアテーマパークへ出発。十時より居合道、槍術、柔術、空手道、合気道、柔道、剣道を本部並びに国際部の講師指導による武道講習会。午前、午後の二回に分けて行われた。十五時二十分講習会閉会後青少年も参加し大会リハーサルを行なう。大人はホテル、青少年はホームステイ先へ移動。濱田代表理事の奥様の案内で市内にて夕食。

八月五日(土) 天候 晴れ

朝食後、フランス武徳祭会場のアルテニュームに移動。九時三〇分フランス武徳祭並びに国際青少年武徳祭が開幕。全員集合、国旗に礼、英霊に対して礼、黙祷、日仏両国の国歌演奏、濱田代表理事の挨拶のあと、フランス、日本の国旗献上式へと進む。選手宣誓は、日本国中

田太郎君、国際部ソフィー・マコーネル君が行なった。渡邊佳代子教士の祓いの儀、英霊に対しての奉納演武は濱田範士により執り行なわれた。本部の演武は剣道形、柳流小薙刀、槍術、空手道、居合道そして青少年の演武、国際部の演武が披露されたのち、カール・ロングゲ範士による納めの儀をもって全演武が終了した。次いで各団体、個人に対する表彰があり、本部竹田による講評のあと、濱田代表理事の閉会宣言、万歳三唱にてフランス武徳祭が十五時四十五分閉幕した。大人、青少年とも着替えて、ポルドームまでバス移動。十九時、ララ・サルマン (Lara Saemann) さんのピアノコンサート開演。十九時三十分、記念祝宴会並びにさよならパーティー開宴。日本の青少年たちの「よさこい踊り」に会場が盛り上がる。二十三時十五分さよならパーティーが終了し、ホテルに戻る。

※記念式典、武徳祭の詳細については参加者諸氏の会報記事に譲ります。

八月六日(日) 天候 晴れ

朝食後、青少年たちはホテルに集合。国際部の皆さま、ホストファミリーの皆さまに見送られ、九時三十分バスでリヨンへ出発。十二時十分テット・ドール公園に到着。昼食後、人形劇を見学し、市内観光に出発する。セーヌ川の右岸、丘の上の白いノートルダム・ド・フルヴィエール寺院の外観を見る。リヨン市街地より車で四十分移動する。夕食は中世の村に建つビストロで食事を摂る。夕食後空港ホテルへ全員が移動する。リヨン空港ホテルに到着、帰国の途に備える。

八月七日(月) (現地時間) 天候 晴れ

小松組は早朝ホテルを移動、七時四十分リヨンから فرانクフルト

へ向かう。フランクフルトから羽田経由で小松空港に向かう。関西組はホテルにて朝食後リヨン空港へ移動、リヨン発九時五十五分アムステルダムを経て関西空港へ帰国の途につく。

八月八日（火）（日本時間）天候 晴れ

小松組六時三十五分羽田空港に到着。台風の影響で羽田空港にて足止め。十六時三十分の小松空港行に全員搭乗し帰国。関西組八時三十五分関西空港に到着し、解散。

フランス武徳祭に参加して思うのは、何時もながらの国際部の皆さまの礼儀正しい姿に感銘を受けました。友好親善につきまして私たちは当初の目的を果たし成功裡に無事終了できたことは大いなる喜びであります。

この大会開催に当たり御尽力を賜り成功に導かれました濱田鉄心代表理事、フランス支部長アンドレ・コニヤード範士並びにアメリカ支部の皆さま、日本選手団の諸先生方、青少年を快く受け入れて頂きましたホストファミリーの皆さま、日本選手団の全てに亘りお世話をさせて頂きました濱田美月様並びにフランス支部の女性サポーターの皆様、本事業に携わりご協力頂きました全ての皆さまに心より厚く御礼申し上げます。

事故もなく全員無事に帰国できたことに感謝申し上げます。

## フランス武徳祭公式市長表敬

日本選手団副団長 渡邊 佳代子

クレルモン・フェラン市は、日本ではあまり知られていない都市ですが、火山に囲まれた空気と水のきれいな街です。また、この環境を活かした火山岩を使った歴史的な重要建築物がたくさん残っているとても素敵な場所です。私達が訪れた市庁舎も思わず写真を撮りたくなる外壁の細工が素晴らしい建物でした。建物の中に入ると Olivier Branchi 市長と Christine Dulac-Rougerie 副市長、Jerome Auslander 副市長が出迎えてくださいました。日本の伝統武道の大会がクレルモンフェラン市で開催される事とても嬉しく思ってくださいました。日本との友好として DNEK 桜パークが作られる場所にクレルモンフェラン市が選ばれて光栄に思っています。反対された方もあったでしょうし、問題点もあったでしょう。それらを解決して下さり、この日を迎えることが出来たことに感謝しかありません。大変だったことは少しも見せずに迎えてくださっていることに、改めてこの地で武徳祭ができる喜びを感じました。

この度のフランス武徳祭の開催において、無事に帰国することができたことは、この事業に関わった皆様のご高配によるものと心から感謝いたします。お互いに思いあう気持ちのこもった温かい大会は、世



界平和につながる国際交流であると思います。この大会に参加させていただき、心から御礼申し上げます。

## 植樹式

日本選手団副団長 中田 浩大

八月三日、真夏の日差しが眩しく晴天の暑いこの日にフランス国クレルモンフェラン市の中心街で一等地のDNBK桜パークにて、クレルモンフェラン市長ビアンキ氏・在リヨン領事事務所長長澤氏そしてクレルモンフェラン市議員等の多くの関係者を迎えて、記念石碑の除幕式並びにソメイヨシノ桜の植樹式が行われました。

会場には、フランス武徳祭の参加メンバーや多くの市民の方々が集まっていました。その中を日本の国旗とフランスの国旗を先頭にビアンキ市長と濱田代表理事、そのあとに本部メンバー・国際支部長がフランスの流れる中、会場入りしました。その後ステージでは、コニャードフランス支部長の挨拶に続き、ビアンキ市長、長澤在リヨン領事事務所長と多くの方の祝辞があり記念石碑の除幕式に移りました。この石碑は、この地域の火山岩で作られたもので大地のエネルギーを感じ、凜と立ち、恒久的な平和の祈りを表現するに値する立派な石碑でした。多くの人からの割れんばかりの拍手と歓声がこの広場を包み込み、思いを共有できた瞬間でもありました。

引き続き植樹式が行われ、最初に来賓の方々により整然と厳かに植樹され、次に青少年の代表と市の関係者・本部メンバー・各国際支部の代表者と続き、最後は今大会出場者全員で植樹が行われました。国の違うメンバーが一つの桜の木と一緒に土を盛る姿は、国は違えど思いをひとつにすることで大きなことができる。それは世界平和であると確信できました。

その姿をテレビ局のカメラ数台、空にはドローンも飛び上空からその様子を撮影していました。この光景はその日のうちにフランス全土に放映されたと聞いた時は、この事業がこの地にもたらした大日本武徳会の偉業は図りしれないものであると思いました。

## フランス武徳祭並びに国際青少年武徳祭 フランス国クレルモン・フェラン市にて

日本選手団副団長 上村 雅彦

「フランス武徳祭並びに国際青少年武徳祭」開催の為、世界十五ヶ国から選手たちがフランス国クレルモン・フェラン市に集結され、誠に盛大なる大会が開催されました。

日本選手団は八月一日から七日迄、七日間の滞在日程でした。

フランス滞在中の主な行事としては、

- ・クレルモン・フェラン市市長表敬訪問
- ・大会記念植樹式、記念石碑除幕式

・フランス支部との交流、夕食会  
・国際武道講習会

・フランス武徳祭並びに国際青少年武徳祭

・大会記念ピアノコンサート

・さよならパーティー

といった行事で御座いました。

その一つ一つの行事が、私の予想を遥かに越えてしまう規模なものであり、毎日が驚きの連続でした。

その一つ「大会記念植樹式」の報告をさせていただきます。

今大会の記念に「DNBK桜パーク」(命名)に石碑が建てられました。その姿は、火山岩で造られた見上げる高さの力強い、誠に見事な石碑であります。

左隣には一般社団法人大日本武徳会とフランス国クレルモンフェラン市の友好のモニュメントが共に今回建立されました。

今大会を記念して、六十本もの桜の木が植樹されました。

今後、毎年この地において「DNBKさくら祭」を開催し、その度に一本づつ桜を植樹し、合計二二〇本にする予定であります。

式典では両国の国歌がながされ、代表理事濱田鉄心先生が、この記念行事の意義や目的、一般社団法人大日本武徳会が求める「世界平和」の願いをお話頂きました。

そして、クレルモン・フェラン市市長や沢山の御来賓頂きました方々より御祝辞を頂きました。

記念石碑の除幕式の後、植樹式が行われましたが、その木には以下の意味が込められていました。

一本目の木には、「世界平和」の為

二本目の木には、「未来の世代の方たち」の為

三・四本目の木には、「本部の発展」の為

五・六本目の木には、「国際部の発展」の為

七・八・九本目の木には「フランス支部の発展」の為

十本目の木には「未来のこの街の人たち」の為

それぞれの木々に素晴らしい思いを込められた、誠に有意義な植樹となりました。

そして十一本目からは各国の青少年達が各々の明るい未来の希望をいっぱい気持を込めて元気よく、素手で全ての木々に植樹をしました。

その光景は世界の明るい未来を創ってくれる強いエネルギーを感じさせてくれる光景でありました。

今回、改めまして、本会が成さねばならない正に重要な事は、伝統武道の正しい技と心を世界中の未来を担う方々に保存継承していく事だと感じました。

そして世界中の青少年少女達が、平和を願い、強く正しく逞しい心作りのお役に立つ為の活動を続けて行き、一般社団法人大日本武徳会の存在が世界平和への寄与と貢献を成すものであり続けなければならないと考えました。

今回、このような誠にありがたい機会をいただきました濱田鉄心先生には、心から感謝申し上げます。

そして至らぬ私をサポート頂きました日本選手団団長竹田先生、副団長渡邊佳代子先生、副団長中田先生、山本楠城先生、長田先生、山本勇先生、井本先生、東出先生、渡邊祥正先生、そして日本選手団の皆様方。

この場をお借りしまして心から御礼申し上げます。

本当にありがとうございます。





充分な働きが出来ておらず、誠に申し訳御座いませんが、『一般社団法人大日本武徳会』が今後とも世界中に発展を遂げ、更なる社会貢献を成する為の一助となれますように、一層の努力をし、精進してまいる所存であります。  
どうか今後とも宜しく御願い申し上げます。





## フランス武徳祭感想

大阪修武会 高校三年 山崎 孝太郎

フランスでの武徳祭を終え今までにない経験を終えることができました。

八月一日の朝、私は大阪修武会から一人での出場であったため、不安という心情からの旅立ちでした。しかし他道場の先生方、道場の子ども達がとても気さくに話して頂けたおかげで私自身も何不自由なく過ごすことができました。支えて頂いた先生方、ありがとうございます。

一週間という期間の中で私が最も驚いたことは、日本から始まった武徳が全世界に伝承されていたことでした。初めて会場を訪れた際に今回参加されていた十四か国の国旗を見、鳥肌が立ち、日本人としてとても誇らしかったです。そしてなにより脳裏に焼き付いているのがアメリカ組の演武でした。全体での動きがまるで蝶のように舞っているように見え、それぞれ一人一人の動きは蜂のように鋭かったのが印象的でした。武徳でこれまでにアメリカという国を表現されており、国内大会では体感できない経験ができ、私にとつてのフランス青少年武徳大会は、大変良い人生経験となりました。

ホームステイの方々によるサポートもたいへんよくフランスの象徴である自由、博愛、平等を、コミュニケーションを取るにつれ感じることができ日々ホームステイの方々と話すが楽しかったです。しか

し互いに言語が違うため、食事の際などに生じる独特の雰囲気もまた私にとつては新鮮な体験でした。クレルモン・フェラン市では私が住んでいる町とは大きく異なり、大変自然に恵まれている町でもありました。したがってホームステイの方々とも過ごすにつれBBQやピクニックといった海外の文化にも触れることができました。

フランス武徳祭では、自己の演武だけではなく海外の文化、風習に触れることができ、今までは、国内だけに視野を置いていた私ですが、海外へと視野を向ける良い機会となりました。これからも積極的に海外に足を運び沢山の経験を積んでいきたいです。

## 将来の夢と武道 「フランス武徳祭」

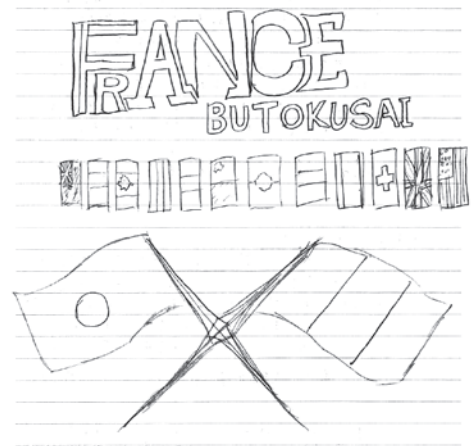
至誠館 中学校二年 渡邊 大也

私は、この一週間のフランス武徳祭を通して、行く前に書いた作文のテーマである「将来の夢と武道」と至誠館のこれからの課題について考えました。

約一週間を通して、道場全体の成長した部分と課題となっていく部分が見られました。成長した部分は、伝えなくてはいけない事はちゃんと伝えられる様になった所です。大会に行く前の当道場の選手達は、あまり伝えたい事を上手く表現する事が出来ませんでした。しかし、全く言葉の通じないフランスでホームステイした事で、ペアの子と

協力して、自分達なりの方法で伝えなくてはならない異文化世界に滞在しました。この経験を、自分の気持ちを伝える事が出来なかつた選手も、はっきりと自分の思いを伝える様になりました。課題になっていく部分もありました。至誠館の選手は全員プライドが高く、仲間のとわかり合おうとしない性格や、自分の主張を貫き通す性格、絶対に諦めたくない性格など、まとまる意識のある人とならない人のそれぞれの気持ちの違いにより、一つにまとまる事が出来ませんでした。至誠館青少年部で一番段位が上のため、まとめなくてはいけない立場でしたが、まとめる事が出来ませんでした。

私は「将来の夢」とは自分自身の希望であり目標だと思っています。その目標があるからこそ、それを実現しようと努力をしていきます。フランスでの一週間を通して、道場の選手達の間には明確な目標が定着していない事に気付きました。一人一人に目標があるのですが、道場としての目標はありません。私は目標が出来れば、各々のプライドが高い至誠館だからこそ、必ずやり遂げると思います。次の全国大会は演武中もそれ以外の時間も礼儀正しくまとまった至誠館になれるよう、道場一丸となって最優秀賞をとりに行きます。そして、自分自身も絶対に変わる事のない将来の夢、目標を武道を通して見つけに行きます。そして気付きをもらったフランスで出会った温かい人々、お世話になった方々に会いに行き、感謝を伝えたいと考えています。



このフランスでの一週間で成長したところを全国大会でみて頂ける様、努力して団体・個人共にこの至誠館のみんなで最優秀賞をとります。そのためにも全国大会迄の一ヶ月を大切に、日々の鍛練を積んでいきます。

## フランスの思い出

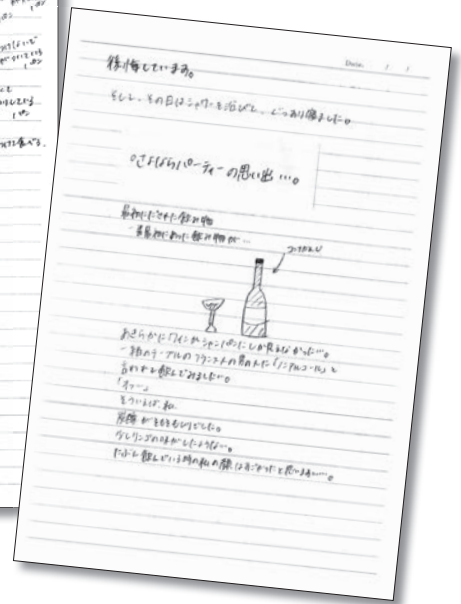
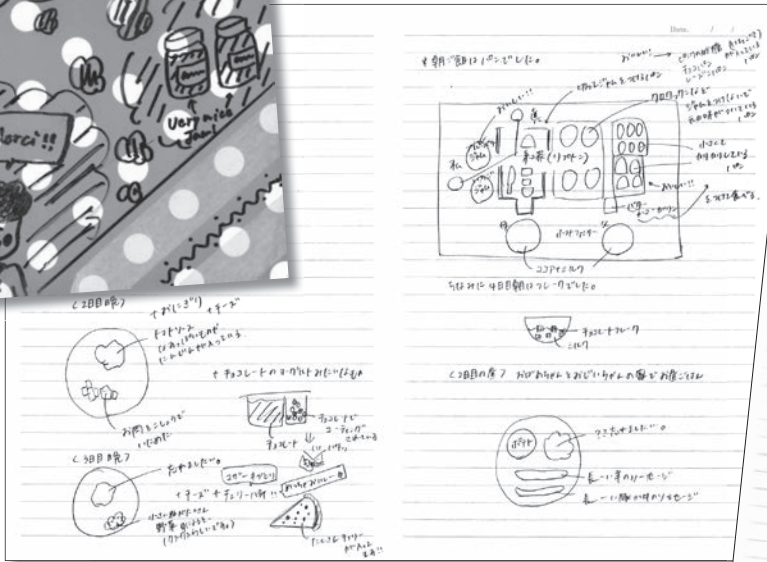
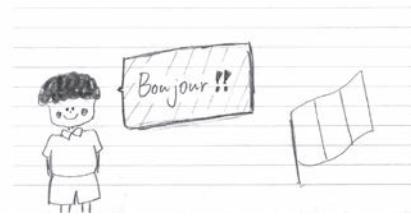
至誠館 高校一年 野本 真由

私は八月一日から七日までの間、青少年武徳祭のためにフランスに行きました。

実は初めての海外で飛行機が事故を起こさないか、凄く不安でした。なので、このように無事に帰って来れて良かったです。

私はフランスに行くにあたって前に書いた通り不安もありましたが、楽しみもありました。まず、フランスに着いてから見た景色は日本とは全く違っていて本当にフランスに来れたんだ、と実感が湧いて嬉しかったです。

私達は青少年武徳祭以外にも、観光や植樹式などたくさんすることがありました。観光では、旅行でフランスに来たのなら行かないであろう場所にも行けたし、植樹式では、普通の人なら滅多に出来ないような一生に一度の体験をすることが出来ました。どれも全て私にとって印象深い経験でした。



そして、一番印象に残っているのは、やはり、青少年大会です。本番はみんなの声がいつもより二倍くらい大きくて私も技をしていて、何だか気持ち良かったです。また、他の国の演武を見ると、他の国にも日本の文化を受け継いでいる人達がいるんだ、と思えて嬉しかったです。

私達の団体は優秀賞という結果で少し悔しかったです、色んなことを知れて良かったです。

今回の大会は私にとって、二度と出来ない経験でした。居合道に今まで以上に興味が持てたし、これからも続けていきたいな、と思うようになりました。

最後になりましたが、私がこのような経験をする事ができたのは、多くの先生方、両親やホストファミリー、国際部の方々など、たくさんの方の協力があったのだと思います。本当にありがとうございました。この経験が無駄に終わってしまう事無いよう、これからもこの経験を自分の生活に活かしていきたいと思えます。

## フランス武徳祭・ 国際青少年武徳祭に出場しました

至誠館 小学校三年 渡邊 眞子

フランス武徳祭・国際青少年大会に出場が決まった日からきびしいけい古が始まりました。元気なあいさつ、大きな声で返事をするこ



正しい姿勢いで礼ぎ作法ができること。何度も何度もくり返し練習しました。先生はがんばっているとき、ほめてくれたので一生けん命練習をして良かったです。

大会前日はリハーサルをしました。演武する位置や号令に合わせて整列したり、みんなでたしかめました。大会当日は、きん張してしまい、思うように大きい声を出すことが出来ませんでした。目標の最優秀賞は取れませんでした。が優秀賞を受賞することができたので、とてもうれしかったです。大会まで教えて下さった先生方、優秀賞を下さった先生方に、とても感謝しています。次の全国大会ではしっかりと古い古が良い結果が残せるように、これからも一生けんめい練習します。浜田先生から言われたことをしっかりと守ります。時間をきちんと守ります。会話をするときは、話す人の目を見ることを心がけます。けい古が始まる前はだれよりも先に準備をして先生を待ちたいと思います。武道の歴史や学校の勉強、家のお手伝い、たくさんのお友達と仲良くします。多くのことができるようになります。一生けん命がんばります。



## 日本代表としての一週間

至誠館 中学校二年 中村 航太

八月五日に行われた国際青少年武徳祭に、日本代表として出場させていただいて、一生忘れない思い出ができた。だが、注意を受けてばかりで、自分の未熟さを感じた一週間だった。

僕たち至誠館を始めとする大阪組は、八月一日に関西国際空港からDNLオランダ航空に乗り、アムステルダム経由でリヨンに到着した。そして、バスでクレルモン・フェラン市に入った。この時は、まだ浮かれていた。観光気分だった。次の日は市内観光だったので、そのままの気持ちだった。三日目には、DNBK桜パークの記念植樹式があった。せめてその時から気持ちを引き締めれば良かったのに、皆楽しそうに見えて、自分もリラックスしてしまっていた。四日目はリハーサルがあったが、なぜか少ししか緊張しなかった。いよいよ五日目、フランス武徳祭・国際青少年武徳祭となった。リハーサルどおり進んでいた。普段どおりの演武ができた。不思議なくらい緊張しなかった。いや、緊張感をもつことができなかった。こんな日にも、気持ちを引き締められないまま臨んでしまった。見る姿勢にも緊張感がなかった。だから、至誠館は最優秀賞を取れなかったのだと思う。未熟な自分のせいだと、先生や仲間にしらない気持ちでいっぱいだ。

このことを深く反省し、稽古に精一杯取り組んでいく。そして、全

国青少年武徳祭では、団体、個人共に最優秀賞をとれるよう成長したい。

## 国際青少年武徳祭に参加して

至誠館 小学校二年 中村 周平

八月五日、国際青少年武徳祭で演武しました。全国青少年武徳祭をした武徳殿とちがつて、広い体いく館のようなどころにたくさんの方が来ていました。ぼくたちは、日本代表のほかの道場の人たちと同時に演武しました。

閉会しきでは、はじめに団体賞が発表されました。最優秀賞に至誠館はよばれませんでしたが、でも、優秀賞をもらいました。そのあと、濱田先生が「青少年全いんに参加賞をわたします。」と言われました。ぼくは何も個人賞はもらえないと思っていたので、びっくりしました。大きなトロフィーをもらえてうれしかったです。武徳祭までずっときんちようしていたけれど、少しほっとしました。九月の全国青少年武徳祭では、最優秀賞をもらえるようにけい古をがんばります。

フェアウェルパーティでは、ほかの国の人に日本らしいものをあげたり、ソーランぶしをおどったりしました。ホストファミリーの家では、おみやげをわたしたり、ごはんを食べてもらったりして日本のことを知ってもらいました。つぎは、二〇二〇年に日本で交流できるのが楽しみです。

## フランス武徳祭

至誠館 中学校一年 熊野 隆星

ぼくは、朝起きたらもう緊張していて、朝ご飯をあまり食べられませんでした。その後着がえをして、会場に行きました。会場に着くと、とにかく人が多かったです。日本の演武は開会式の後だったので、入場するときから緊張していました。でもちゃんと声を出せました。演武はほぼかんぺきにできたけど、最後に下緒を落としてしまったのが残念でした。最後の表彰式では、賞がもらえるか心配だったけど、優秀賞が取れたのでうれしかったです。

## フランス武徳祭当日

至誠館 小学校五年 熊野 風起

ぼくは、大会の日の朝うまくできるか心配でした。先生たちの、演武が終わったら一番は日本でした。ぼくは、いつもけい古でやってい

る事ができるか不安になりました。でも、国旗に礼をして自分の場所  
にいつて、演武が始まったら、いつもけい古でやっている技ができま  
した。すごく、きん張したけどうまくできて良かったです。

## フランスに行つて

至誠館 小学校四年 上野 こうき

ぼくは、フランスに行つて思った事や学んだ事があります。それは、  
ホストファミリの方々はやさしいなあと思つたことや、国さい部の  
方々は、すごいなあと思つたことです。

ホストファミリの方々は、食事もおいしく作つてくれるし、せん  
たくも、やつてくれるので、すごくやさしいなあと思ひました。国さい  
部の方々は、おじぎをして待つていてくれるし、荷物をもつてきてく  
れたり、ぼくたちが来たら、おじぎをしてくれたりしたので、すばら  
しいなあと思ひました。これがぼくの思つたことや学んだことです。

全国大会では、ホストファミリの方々や国さい部の方々のように  
行動します。これからは、フランスのけいけんを、生かしてしっかり  
やつていきたいと思ひます。次の全国大会もがんばりたいと思ひます。

## フランス大会

至誠館 小学校二年 ひらやま りゅうせい

ぼくは、フランスにいつて大会でさいしょはまちがえるとおもつ  
たのに、だいたいまちがわなかつたのでよかつたです。  
あとトロフィーをもらつたので、うれしかつたです。

しゅうへいとけんかしたけどなかなかおひしてよかつたです。  
さよならパーティーが一ばんたのしかつたです。  
ホームステイのあさごはんがおいしかつたです。  
ほとんど日本のごはんでした。  
大きくなつたらさくらを見にまたフランスにいきたいです。

## ぼくと居合道とフランス

こばと修童館 小学校五年 山岸 大真



ぼくの声で演武が始まる。心ぞうがドキドキ鳴った。手も足も少しふるえていた。でも自分の耳に入ってくる声はふるえていなかった。落ちて着いて演武ができてしまった。演武は夢中でしていたので、あまり覚えていないけれど、とても長い時間だったような気がした。前にならぶ中学生はいつもよりも上手だった。でも、ぼくも間違えないようにがんばった。終わった時は力がぬけてしまった。でも



また足が震えてきた。先生たちの演武はともにかっこよかった。会場全体が静かで「えいっ」「やあっ」の声だけがひびいていた。

フランスに行くことをずっと楽しみにしていた。暑い日の合宿もつらくなかった。どんなお家かな、どんな友達かな、どんな料理かな。不安なこともあったけれど、見たことや経験したことは全部楽しい思い出になった。ホームステイ先のマティスさんと仲良くなれて、つみきを積み上げて抜き取る遊びを何回もして遊んだ。大阪の友だちもできた。いっしょに行つたはるきくんは、出発前に腕を骨折してしまつたのでかわいそうだと思った。でも、痛いのに外国にがんばって行くのだから、ぼくにできる手伝いをがんばろうと思った。いっしょに行けて本当にうれしかった。楽しい時間はあつと言う間だった。

これまで熱心に居合を指導してくださつた先生方や会長の野村さん。いっばいお世話になつたおかげで、一生に一度しかできない経験ができた。ぼくはフランスのいいところがたくさんわかつた。今度は日本。いいところを見つけて、外国の人に教えてあげることができるようになりたいと思った。ありがとうございました。

## 青少年武徳祭を終えて

こばと修童館 高校三年 中田 太郎

僕は今までアメリカ、カナダ、イギリスと三回の青少年武徳祭に出場しました。そして、今回のフランス大会で四回目の出場となりました。

第三回のイギリス大会では旗手に加え、日本のチームの団長として選手宣誓といった責任重大な役割を二つも頂きました。自分の役割を聞かされた時にはびっくりしましたが、精一杯、頑張ろうと思いました。

本番になり実際に選手宣誓をした時には初めてだったので緊張しすぎて、何を言っているのか自分でもわからないほどでした。それでも何とか自分の役割を一つ終えられてホッとしました。

一方で居合の演武はいつも通りに緊張せずに精一杯の演武をすることができました。他の国の方々の演武も見ましたが特にフランスの演武が大人数でしっかり揃っていたので、とても迫力がありました。

すべての演武が終わり、表彰式では僕たちのこばと修童館がみごと最優秀賞をいただきました。これまで皆で稽古をしてきましたが、本番では気持ちをお合わせ、一番良い演武ができたように思っていたので、認められたことがとてもうれしかったです。

今回のフランス大会では良い成績も残せましたし、日本の他のチームや外国の方たちとも交流ができ、とても楽しく良い思い出になりました。

## フランス武徳祭

こばと修童館 中学校二年 横井 鉄也

このフランス武徳祭での目的の一つにしていた「フランスの文化を知り、日本の文化を伝える」という目的は達成できたと思いました。フランスでのホームステイの時、ホストファミリーの方にいろいろな人に会わせてもらい家を見せてもらったりしました。フランスにいる七日間、日本との違いをとて感じました。ですが大会会場においては、通じることもありました。それは武道家の心です。普段、道を歩いている時、人とぶつかりそうになったら自分も相手もそれを避けようと左右に動きます。ですが武徳祭会場はそうじゃなく、自分の為ではなく、相手の為に道をゆずり合っていました。この心は、国の違いが関係なくても少なくとも今回の大会に参加していた人達からは感じられました。なので、その武道家の心を九月の全国青少年武徳祭に参加している団体へ伝えられるようにしたいです。大会の演武では、緊張のせいか刀がぶれる事が多々ありました。でも大人の演武では、緊張している人がほとんどいかなかったように思います。僕は本番で落ちついて演武できることが少ないので、大会では落ちついて課題を克服出来るように望みたいです。そして、演武の時には、自分達の練習した技を出し切れるようになります。

## フランス武徳祭に参加して

こばと修童館 中学校一年 九谷 美桜

八月五日、フランスのクレルモンフェラン市 Artemiumにてフランス武徳祭が行われました。この大会に向けて、私たちこばと修童館は毎週日曜日の練習に加えて、七月には合宿にも行き、集中的に練習を重ねてきました。私も苦手などころを意識して取り組み、練習以外にも日本人としての礼儀や作法など、正しく身に付けられるよう気を付けて準備してきました。

大会当日は、ホストファミリーに送ってもらい会場に集合しました。そして皆で集まり、最後の練習をしました。演武する場所は濱田先生や竹田先生、審査員の方々の前なので、とても緊張しましたが私は絶対に目を動かさないように前を向き、演武することに集中しました。練習・リハーサル後、皆で先生に呼ばれて行くと、急ぎよ、「人数配置の変更をする」とのことでした。本番前の突然の変更に驚き、焦る気持ち、不安な気持ちも出てきました。でも、先生の指示があったからにはやるしかありません。覚悟を決めて、いざ本番！ものすごい緊張感の中、今までの練習のすべてを見てももらえるよう一本一本丁寧に演武していききました。変更になったところも上手くいったのでそれも今までの練習があったからこそ。改めて練習、努力の積み重ねの大切さを感じました。私個人としては、七本目のところで間違えてしまい

ました。その時は、「しまった」と心の中で思ったけれど、何もなかったようにこらえて、表情を変えないように必死に演武を続けていきました。その時のことを思い出すと、今でも悔しくて忘れられません。

結果は、最優秀賞を頂くことができました。海外の方々の演武はとも迫力があり、かつこよく日本人以上にきれいだだったので、自分たちが賞を頂けて、驚いたし、すごく光栄で嬉しかったです。一生忘れない、最高の思い出ができました。

次は、京都の全国武徳祭です。今回の反省を踏まえて、悔いの残らないような演武ができるように全力で練習に取り組んでいきたいと思っています。

## フランス武徳祭

こぼと修童館 小学校五年

中村 姫梨

私は居合いでフランスに行きました。一日目にホテル行ってホストファミリーの方に初めて会いました。会ったときに濱田先生がシェフだと教えてくれてびっくりしました。

ホームステイの所に行って子供の女の子二人にも会いました。ホストファミリーの家族はみんな優しくかったです。それにしゃべりやすいので色々話が弾みました。

二日目に山へ行きました。武徳祭に出場する外国の人と京都の人と

会いました。その時に友達もできました。楽しかったです。そして植樹祭と武徳祭などの事について濱田先生から話を聞きました。そして解散してホストファミリーの家に帰りました。ゴム飛びやセグウェイでホストファミリーの女の子と遊びました。

三日目に植樹式がありました。桜の木を植えました。濱田先生の話をお聞きしました。外国語も言っていました。すごいと思いました。桜の木を植える時は野村さん、山岸さん、松田さんと私で植えました。緊張して手が震えました。植樹式が終わったときはホッとしました。

その後はホストファミリーの所へ帰りました、ペットの猫のミミと犬のジャングーと遊びました。犬のジャングーがとてもなついてくれました。

四日目に火山がメインのテーマパークに行きました。そこで土産を買いました。その後に武徳祭のリハーサルがありました。明日が大会なので緊張しました。

五日目にとうとう武徳祭の本番になりました。みんなとタイミングを合わせて刀をしまう時にしまう所を見ないようにタイミングを合わせようと努力しました。なるべく音がなるようにもしました。大会で全力が出せて良かったです。

これからも全力が出せるようにしていきたいです。

武徳祭が無事に終わったらさよならパーティーがありました。その時に食べた料理を作ってくれた人がホームステイの人だったのですごいと思いました。それにとてもおいしかったです。外国の人と友達になれてとても良かったです。濱田先生にサインがもらえました。

六日目に人形劇を見たり観光したりしました。次の日は寂しいけれど飛行機に乗って帰りました。

私が大人になったらもう一度フランスに行ってお世話になったホス



トファミリーに会いに行ったり、植えた木が育ったところを見たいです。フランスに行けた事がとても幸せです。

## フランスに行つて

こぼと修童館 中学校一年 中田 花

私は、このフランス武徳祭に行った時に海外の人たちが日本の文化をどう思っているのか、その人たちの武道がどのようなものかを見て日本とどこが違うのか、似ているのかを比べてみたいと思っていました。

私はホームステイ先でたくさん話をしました。私たちに合わせて英語で話してくれ、会話ができた事がとても楽しかったです。ホームステイの方が私がやっている居合道がどのようなものかを知ろうとしてくれていて私はとても嬉しかったです。他の国の文化などを積極的に知ろうとしていてすごいと思いました。私は大会があった時に外国の人たちが日本の伝統的な武道を行うだけではなく、日本語でしっかりと挨拶をしていることが素晴らしいと思っていました。「おはようございます」「ありがとうございます」「失礼します」「いただきます」など外国の人たちが言っているのを聞いて私たちが逆にしつかり言わなきゃいけないと思わされるほどでした。

他にもさよならパーティーでは私たちが日本のソーラン節を踊って

ほかの国の人とたくさん触れ合えました。ハッピや鳴子を渡すと踊ってくれる子もいて嬉しかったです。その後、私たちが折り紙を折っていた時に他の国の人に興味を持ってくれ、たくさん外国の人にも折り方を教えることができて、とても楽しかったです。

二〇二〇年には京都で世界武徳祭が開かれると聞きました。この年は東京オリンピックがある年なので、武道のオリンピックともいえるかもしれません。今からとても楽しみです。その時にもたくさん日本の文化を知ってもらえるように今回のようにたくさん触れ合っていたらいいと思います。

## 国際青少年武徳祭 フランス大会に参加して

こぼと修童館 小学校五年 野村 侑芽加

わたしは、八月一日から八月七日までフランスに行っていました。行く前は、フランスは都会だと思っていました。しかし、クレルモンフェラン市は、とても自然がいっぱいで、豊かな市だったので、びっくりしました。

八月二日に、濱田先生がおっしゃられたことで、とても大切なことを学びました。それは、「居合は、サッカーなどどちがう。」ということです。サッカーなどは、ルール上で勝負がつきます。しかし、居合道はちがいます。居合道は、ルールで勝負が付きません。とてもすば

らしい演武をして、だれもかもが感動することで勝つことができます。「敵は相手にあり、ではなくて、敵はわれにあり。」です。

このことを演武する前に一度思い出して、フランスで、すてきな演武をしていきたいと思いました。

八月五日に行われた国際青少年武徳祭では、がんばって演武はできたけど、二本目の刀がうまくできなかつたので残念でした。しかし、演武が素晴らしいということで、最優秀賞をとることができました。だけど、最優秀賞をとっても、直さないといけないところもたくさんあるので、今後もけいこをして、ミスを無くした演武をしていきたいです。

## フランスぶとく祭

こぼと修童館 小学校五年

松田 暖生

ぼくは、七月三十一日から八月八日まで居合の大会で、フランスに行ってきました。

でも、七月二十一日にけがをしまして、右手のほねを、折ってしまいました。病院の先生に、一ヶ月は、このままギプスと言われました。フランスに行く前だったので、武徳祭に行けなくなつたと思つて、とてもかなしくて、なみだが出てきました。ずっと練習していてえんぶをすることを楽しみにしていました。

大会の日までに治そうといっぱい食べて、いっぱいねました。ちよつとずつ、痛みも治まってきたので、居合ができるかなと思つていたけれど、右手で居合刀を持つことすら、できませんでした。とても、くやしかったです。こんなぼくに、武道をするみんなや先生がたが、フランスへ行くことを許可してくださいました。とてもうれしかったです。演武している時、ぼくは、刀を持ってないから、先生に言われて、その場で正座をすることになりました。入場や退場や正座の時、し勢をよくして、演武している時みたいに、真剣にがんばろうと思いました。フランスに行く中、十五時間くらい飛行機に乗りました。雲の上の景色がとてもきれいでした。機内食もおいしかったです。

フランスでは、やさしそうなホストファミリーのかたがたが待っていてくれました。ぼくは三日間、ぼくと同じ十歳の男の子がいる家に行きました。言葉はちがうけど、ジェスチャーなどを使って遊べたので、楽しかったです。

フランスには、教会やふん水や銅像がたくさんありました。とてもすてきだと思いました。朝ごはんは、みそするとごはんも作ってもらいました。フランスにも、ごはんのみそしるがあることがわかりました。ごはんは、日本とちがっていて、細長かったです。

植じゆ式もありました。さくらの木を植えることができて良かったです。いつか自分が植えた木を見に行きたいです。

テーマパークも行きました。火山のことが良くわかりました。ついでにきょうりゆうのことも、わかりました。

大会当日は、とてもきんちようしました。みんなにめいわくをかけるように、集中しようと思えました。結果は、最優秀賞でした。とてもうれしかったです。早く治して、次の大会は、絶対に出たいと思いました。今度は演武をして、ゆう勝したいです。あと、けがをし

ないようにします。

さよならパーティーでは、海外の人にギブスにサインをしてもらいました。海外の人は、けがをした人に、サインをするとわかりました。サインをしている時、はずかしかったです。でも、うれしかったです。最後に、リヨンへ、観光に行きました。ここでは、有名な人形げきを見ました。言葉はわからないけど、先生から、想像力が高まると言われました。想像して人形げきを見れたので、楽しかったです。

演武ができなくて、くやしかったですけど、フランスで、いろいろなことをさせてもらえて、とてもうれしかったです。

居合をしていて、よかったなあと思いました。これからも、続けていきたいです。

## 国際青年武徳祭に行つて

こばと修童館 中学校一年 向

杏奈

私は、大日本武徳会日本代表団の一員として国際青年武徳祭に参加しました。初めての外国、フランスに行き日本代表という自覚を持つて行くことができ感謝の気持ちでいっぱいです。遊ぶときは遊んで、居合をするときはする。その、メリハリがとても良かったです。一週間行つたうちの五日間をホームステイをしました。日本語が通じないのでとても心配でした。だけど、言葉がわからなくてもジェスチャー

などでだんだんと会話が出来るようになっていきました。私はそこで、言葉は通じなくても通じ合える！ということを知る事ができました。

最後にいっぱい思い出はあるけど私はまず増田先生にお礼を言いたいです。この国際青年武徳祭に行けたこともそうだし、そこで沢山の事を学ぶ事ができ、いろいろ知る事も出来たからです。その事をこれらの生活に生かしていきたいです。本当にありがとうございました。

## フランスに行つて感じたこと

こばと修童館 中学校一年 廣川

華

私はフランスに行つてとてもいいなと思ったこと、感じたことが二つあります。私はその気持ちを感じてとてもよかったですと思いました。

一つ目はフランス人、またアメリカ人の優しさです。私たちのホームステイの人はとても優しく、自分が楽しんでもらえるように色々なことをしてくれました。他の国の人もとても優しくしてくれたのでこの関係がこの先ずっと続いてほしいと思いました。

二つ目は武道の大切さです。日本で作られた武道がこんなに多くの人々が一つ一つ大切にやっていることです。私はこれを見てもっと頑張ろうと思いました。そして最優秀賞がとれてとてもうれしかったです。私はフランスに行くことが出来てとてもよかったですと思います。ホームステイの人にはとても感謝しています。ありがとうございました。



## 初めての武徳祭

こばと修童館 中学校一年 不破 慧音

私は、今回、初めてフランスに行きました。

フランスでは、初めてのホームステイをしました。最初は通訳の人も居ないので、ホームステイに行くのが実は怖かったです。

だけど、いっしょにゲームをしたり、ご飯をたべたりしていくうちに、だんだん楽しくなってきました。

言葉が通じなくても、パソコンやジェスチャーで通じ合う事が出来ました。

ホームステイ先の皆さん、短い時間でしたが、有難うございました。また、武徳祭では、最優秀賞になる事が出来ました。

練習の時よりも声を出す事ができ、目線も落とさずにする事ができました。

本番では良い演武をする事が出来たので良かったです。

フランスでは、初めての体験を沢山し、楽しく過ごす事ができ、とても良い経験となりました。

また行く事の出来る機会があれば是非、行きたいです。

## フランス国際青少年 武徳祭を終えて

正守和道塾 小学校四年 近藤 佑樹

一生忘れられない最高の思い出になりました。そして、ぼくたちを支えてくれた皆さんにとっても感謝しています。

「武をもって徳をなす」「世界平和」という濱田先生のお言葉は、今フランスでの日々を思い出すたびにぼくの心にひびいています。

八月一日、初めての海外旅行にワクワクして飛行機に乗りました。おしゃべりに映画やゲーム、機内食と、長時間の移動もとても楽しい時間でした。窓の外は真っ白な雲の上、その光景にとっても感動しました。

ホストファミリーのフーコーさんはとても優しく、「ずっとここにいたい。」と思ったくらい楽しいホームステイでした。大自然のすばらしい景色、たくさんの動物たち、フーコーさん一家の優しさに心が広く美しくなりました。フランス語や英語、ジェスチャーで交流できたこと、おいしい料理をたくさん食べれたことも思い出です。羊の肉料理、目玉焼きをくださったトーストは絶品でした。

武徳祭では、空手だけでなく、合気道や居合道など色々な形を色々な国の武道家たちが演武しておられ、どれもとてもカッコよく、そして、その光景がとても新鮮に感じました。ぼくは足がふるえるくらい緊張していましたが、深呼吸をして演武をしました。力が入りすぎて、少しふらついてしまったところがありました。力を出しきれなかったこと

を心の中で喜びました。チームしようれい賞をいただき、とてもうれしかったです。そして、これからもっともっと頑張ろうと決意した一日でした。

さよならパーティーでは、アメリカの人たちと一緒にテーブルでした。色々な質問をしてくれて、全部答えることができました。また、ソーラン節で使ったはっぴと鳴子をプレゼントし、とても喜んでくれました。こうやって色々な国の人たちと交流を持ち話ができただけは、とても楽しく、これからもっと世界の人々と交流を持っていきたいという思いになりました。

ぼくはフランス大会に参加できて、本当に良かったと思います。空手を始め、上村先生や仲間に出会い、空手のことだけでなく色々なことを学びました。そして、このようなすばらしい体験ができました。

この機会を与えてくださり、ぼくたちのためにたくさん準備や支援・指導をしてくださった大日本武徳会の先生方、皆さま、上村先生、フランスの方々、アメリカの方々、ホストファミリーのフーコーさん、たくさんの方々に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ずっと一緒に頑張ってきた仁くん和日本選手団の皆さん、応援してくれた家族にも感謝します。「ありがとうございます。」

これからも夢や目標をしっかり持ち、武道を通じてたくさんの方々と交流し、ぼくも世界の人々の支えになれるような人に成長していこうと思います。

## フランス武徳祭を振り返って

正守和道塾

小学校六年

片山

仁

僕は一日目フランスに行く時、家族と離れて少しさびしかったです。だけど、飛行機の中で映画を見ていたらさみしさも吹っ飛びました。ホテルに着くとホストファミリーの人が待っていてくれました。優しいそうなお夫婦だと思いました。ホストファミリーの家に着くと疲れていてすぐにベットに入りました。だけど、ハエが沢山いて、虫嫌いの僕はとても怖い思いをしました。だけど、ホストファミリーの人がハエを退治してくれて安心して眠れました。

二日目は、武徳祭会議で色々な先生の話聞いて改めて「日本代表としてここに来たんだ」と思いました。午後は、クレルモンフェラン市を観光しました。最初に火山に行きました。火口まで電車で行き、火口に着くとマグマの跡が沢山ですごくきれいでした。次に市役所に行き、議場を見学しました。普段は入れない場所に子供だけ入れて、すごく興奮しました。

三日目、ホストファミリーがスーパーに連れて行ってくれました。家族や友達、自分のお土産を買うことが出来て楽しかったです。その後、植樹祭に参加しました。太陽がサンサンと輝いてる中、ずっと立っていたので少ししんどかったです。植樹の時に代表に選ばれてすごくほこらしかったです。

四日目、色々な国の人とヴァルカニア遊園地に来ました。その後、バスでリハーサル会場へ向かいました。リハーサルをしてすごく緊張が高まりました。そしてドキドキしていて、明日は今まで以上の力を出そうと決意しました。

五日目、初めての海外での武徳祭ですごく緊張していました。手の平が汗でヌルヌルで棒がすべりました。ヌンチャクは近藤君とリズムが合っていたのでよかったです。ほかの人の演武も、みんな一生懸命していてすごいと思いました。その後、少ししんどくなってみんなに甘えてしまいました。もっと我慢しなければいけなかったと反省しました。

六日目、ホストファミリーとの別れは寂しかったです。リオンの観光では最初に、テットドル公園に行きました。そこで、人形劇を見ました。すごく楽しかったです。次にノートルダム大聖堂に行きました。中には入れなかつたけど外から見る景色もすごくきれいでした。

七日目、リオンから日本に帰ってきました。日本に着くとお父さんとお母さんが迎えに来ていて顔を見たらすごくホッとすれしかたです。

フランスでは、たくさんの方がお世話をしてくれたから、安全に楽しく過ごす事が出来ました。お世話になった人たちに「ありがとうございました」と伝えたいです。



## フランス武徳祭並びに 国際青少年武徳祭

国際青少年武徳祭 副団長 渡邊 佳代子

フランス武徳祭ならびに国際青少年武徳祭に出場するにあたり、出発前に豊中市長をはじめ、子どもたちの通う各学校に壮行の表敬訪問をいたしました。「日本代表として頑張ってきて下さい。たくさん楽しんで思い出を作ってきてください。」と送りだして下さった皆さまに結果報告のため、九月十四日(木)午後四時半から豊中市庁舎にて浅利敬一郎豊中市長。九月一日(金)午後五時から豊中市立第十一中学校にて大野俊介校長先生ならびに尾崎理人教頭先生。九月七日(木)午後四時から豊中市立少路小学校にて小谷伸子校長先生ならびに西岡雅美教頭先生を表敬訪問いたしました。

このたびのフランス武徳祭ならびに国際青少年武徳祭は、一九〇七年に日仏協定が締結され百十周年を迎え、また、来年は日仏修好通商条約百六十周年を迎えることからこの節目を記念し、日本の伝統武道を通じて国際交流を図り、相互理解の促進と世界平和に貢献するために、さらに世界の未来は青少年にかかっており、武道を通じて各国との親睦を深め、青少年の健全育成を図ることを目的として開催されました。子供たちは、この国際大会でよい成績を残すことはもちろんのこと、ホームステイを通じてフランスが誇る歴史や文化を学ぶと共に、日本の伝統文化の素晴らしさを広く伝える日本文化大使としての使命



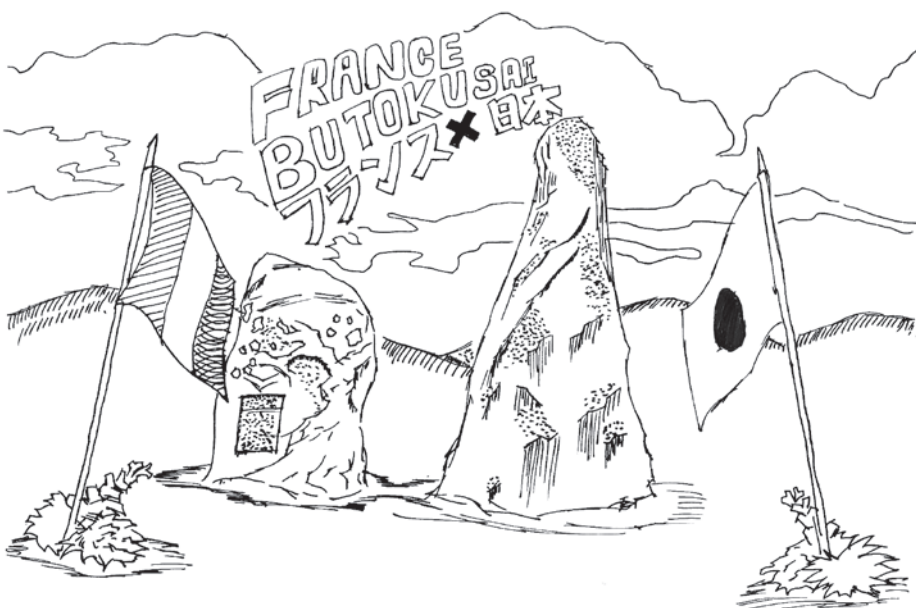
をいただきました。

「国際交流日本文化大使として」という活動報告が来ました。参加した子どもたちは、出発前「国際交流日本文化大使」の役割を「ホストファミリーに日本の文化を知ってもらうこと」としか想像していなかったと思います。フランス到着後、日本からの参加者の顔合わせを兼ねた会議を行いました。その会議で日本人として、どの様に行動するべきかを考えました。この大会は日本の伝統武道の大会であること。日本人は大人であつても子どもであつても常に周囲から見られているということ。それは国際部の参加者にとつて見取り稽古であることを確認いたしました。例えば、挨拶をする時は必ず立ち止まり一礼をする。国旗・武徳会旗に対して敬意を表し、一礼をする。礼の角度。脱いだ履物の揃え方。立つ位置。歩く順番。すべての振舞いが日本の武道をする者として、また、日本人として見られているなかにあるという事を認識しました。

日仏協定締結百周年の節目に、この歴史的で重要な二国間の絆をさらに促進するためにクレルモンフェラン市に六十本の吉野桜を植樹してDNBK桜パークをつくり、世界平和祈願と日仏二国間友好のシンボルとして記念石碑が設置されました。国際的なレベルで武道を通じた青少年交流ができたこと。未来に向けてのメッセージをもった植樹に携わったこと大変重要な意義があつたと思います。参加した子供にとつて、それぞれの言葉の持つ深い意味は、未だわからないかもしれせん。しかし、一本の木をヨーロッパにとどまらず、世界各国から集まった同世代の子どもたちが、お互いに笑顔で心のコミュニケーションを図りながらの植樹の思い出は、この桜の木の成長と一緒に大きく育つて行くものと思います。日本代表として植樹し、大会に参加したことは、日本人として、武道家として、国際交流と友好、協

調、協力がなされ、大きな感動をよび、友愛と尊敬をもたらし、素晴らしい思いやりと感謝の時間を体験することができたと思います。「すごいね」「よく頑張ったね」のお言葉は、未来につながる心の成長をもたらされると信じます。

ご多用中にもかかわらず、あたたかいご声援とこの大会での活動報告に貴重なお時間を賜り、すべての方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



## フランス武徳祭 並びに国際青少年武徳祭 日本選手団副団長として

日本選手団副団長 上村 雅彦

今回私は「フランス武徳祭並びに国際青少年武徳祭」日本選手団副団長として参加させて頂き、大変貴重な機会を与えて頂きました。今回の行事を長期にわたり御準備なされて大変な御苦勞をされ、大会では私達をご指導頂きました濱田鉄心先生に対しましては、いくら御礼を述べさせて頂いたとしても足りません。心から感謝しております。

また、ご参加されました先生方を初め、御父兄御家族の皆様方、本当にお世話なり、ありがとうございます。

日本の青少年選手団の方々と共に行動させて頂きましたが、皆さんの誠にししい働きに驚かされました。見知らぬ海外での行動にも関わらず、一致団結して御互いを気遣いながらの団体行動、私は逆に助けられました。誠に素晴らしいの一語であり、改めて感謝致します。

そして、大会当日の堂々とした姿、演武に挑まれる一つ一つの所作が見事であり、日頃から技の修練と併せて心の修練が充分にされた賜物であると感心致しました。海外の選手の方々も、日頃の心身錬磨の成果が素晴らしい演武に表れており、感激させられました。

今回、私がもうひとつ勉強させて頂きましたのは、言語の解らぬ中でも「礼」が心を通じさせてくれる事でした。海外の方達は日本の我々に対し、接する毎に深々と「礼」をして頂きました。私もその方々に

対して礼と笑顔を失することの無いように心がけました。

しかし、何故「礼」なのか。この「礼」の意味が理解出来なければ「目上だから」とか、「日本人だから」云々、といった強制的なものや一方的なものになってしまいます。

「礼」や「所作」について、私が心に残っている幕末のお話があります。明治新政府が誕生する数年前、江戸幕府がはじめて外国に派遣した「使節団」が、アメリカニューヨークのブロードウェイを訪れました。大勢アメリカの人達が集まったそうです。その観衆の中に詩人ウォルト・ホイットマンがいました。侍達は紋付き袴、腰には日本刀を下げた姿でした。多くのアメリカの方達と同じく、ホイットマンは侍達の、正面を見据え背筋を伸ばし、威風堂々とした姿を見て、「礼儀正しい使節たち」と、侍の印象に賛辞の言葉を贈り、文章を残してくれています。しかし日本の侍達にしてみると初めて見る異国の地と、明らかに自分達より大きな体格の人々に対して恐怖心が無かったわけではないでしょう。でも彼らは堂々と、しかも礼儀正しく現地の方達に接していたとの事です。また、アメリカの方達やホイットマンも、会話をして人柄に触れた訳ではありませんが、彼らが見たのは日本の侍の威風堂々とした態度や、異国の地で初めて会う人と相對する時の礼儀正しさであったと考えます。侍達の「礼」を見て心を打たれ、その感動の思いが文章となり後世に残され、私達に知らし教えてくれました。今一度、私達がそのような心に響く「礼」が出来ているかどうか、大いに反省して学ばなければいけないと感じます。

私達は「武道家」として技はもとより「礼」と「所作」を実践しながら、後世に伝授して行く重要な役割があります。それこそが世界中に広げ伝えて行かなければならない事であると思います、至らぬ私としては今後益々学び、そして伝え広げていく役割を感じております。

どうか今後とも御指導宜しくお願い致します。

# 市長舎表敬訪問



京都市長表敬訪問



豊中市長表敬訪問



小松市長表敬訪問